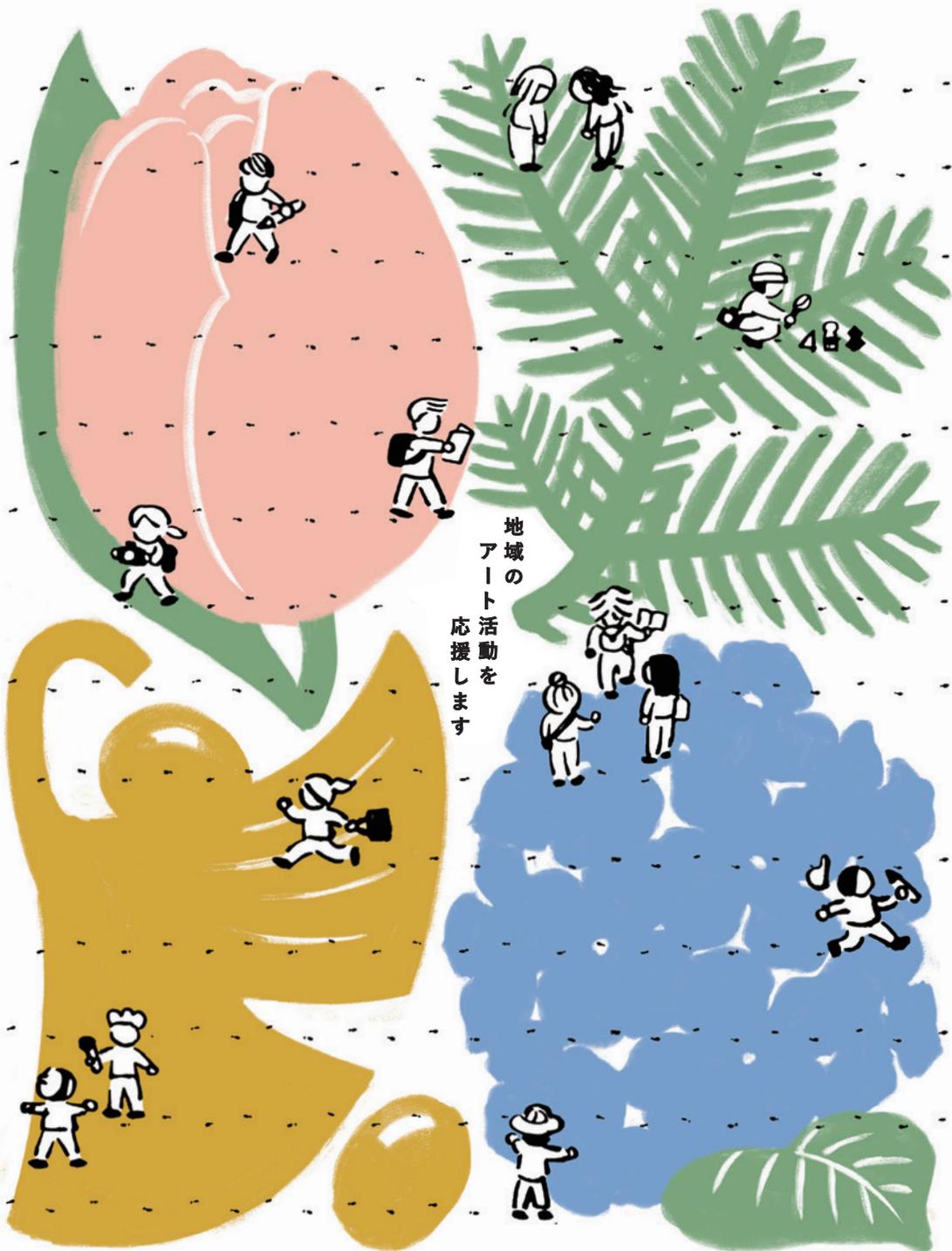


Y 横浜アートサイト

Yokohama Art Site



地域の
アート活動を
応援します

2023 実施レポート

ヨコハマアートサイト2023とは

横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト」は、
地域課題の解決にアプローチするため、
文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化と結びつける活動や、
横浜の個性ある文化芸術を市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

助成以外にも、広報誌「季刊ヨコハマアートサイト」の発行、
ウェブサイト・実施レポート等による広報や、まちづくり等さまざまな分野と文化芸術の
関わりについて意見交換を行う研修や交流の場「アートサイトラウンジ」、
参加団体が一堂に会する「キックオフミーティング」「報告会」も実施しています。

季刊ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化に焦点をあて、各地域での取り組みを幅広く紹介する広報誌を発行しています。横浜市内の各区役所、文化施設、地区センター、地域ケアプラザ等で配布しています。ウェブサイトからもご覧いただけます。



アートサイトラウンジ

地域におけるつながりやネットワークを広げ、コミュニティの活性化を図ることを目的とし、横浜でアートと地域の関わりについて考える交流と研修の場として年に4回ほど開催しています。



公募概要

対象期間：2023年7月～2024年1月

対象となる活動：横浜市内で実施される美術、映像、音楽、舞台芸術等にかかわる文化芸術活動のうち、不特定多数が参加できる催しが含まれているもの。

助成金額：活動資金は1件につき10万円～200万円を助成します。

新規活動^{※1}の申請については、助成対象経費全額までの助成を可能とします。
継続活動は、助成対象経費の2分の1以内の助成を基準として選考します。
継続して助成する期間は5年を目安^{※2}とします。
6年目以降に申請する場合は申請用紙の指定の欄にその理由等を記入してください。ただし、採択の優先度は低くなります^{※3}

※1ヨコハマアートサイトでの過去の採択実績にかかわらず、これまでに開催歴のある事業は継続活動、新しく立ち上げる事業は新規活動とします。
※2コロナ禍への対応として、令和2年度・令和3年度は期間算定の対象から除外します。
※3文化施設は<https://www.city.yokohama.lg.jp/kanko-bunka/bunka/bunkashisetsu/shisetsu.html>を参照。STスポットを除く）および横浜市歴史博物館と連携（共催・協力）し、内容の拡充等が図られている場合は、この限りではありません。

- ヨコハマアートサイト 2023選考委員会**
(順不同・2023年5月当時)
- 長尾聡子(アートアクセスあだち 音まち千住の緑 事務局長)
 - 市川徹(株式会社世田谷社 代表取締役)
 - 宮下美穂(NPO法人アートフル・アクション 事務局長)
 - 佐塚玲子(NPO法人よこはま地域福祉研究センター センター長・副理事長)
 - 川那辺香乃(堺アーツカウンシル プログラムオフィサー)
 - 小原光洋(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 経営企画・ACYグループ プログラムオフィサー(ACY))

外部の有識者で構成されたヨコハマアートサイト2023選考委員会により選考を行いました。

目次

活動報告(団体名50音順)

02	アーティストネットワーク+コンパス 会社から地域へまるごとギャラリー2023	34	STAND Still 性暴力サバイバービジュアルボイス
04	OUTBACKプロジェクト OUTBACKアクターズスクール	36	NPO法人スペースナ のんびりアートデイ
06	任意団体アオキカク 2023「路上の身体祭典H!!」新人Hソケリッサ!寿町プロジェクト	38	ティーンズクリエイション組織委員会 SAKAE Wakamono Creation
08	あっぱれフェスタ実行委員会 第十回あっぱれフェスタ	40	どこコレ?inたまブラーザ運営事務局 どこコレ?inたまブラーザ
10	WeTT実行委員会 ONO POINT ART SPACE	42	虹色畑クラブ 虹色畑クラブ 畑でアートプログラム
12	特定非営利活動法人EduArt EduArt:グローバルシティズンシップ プログラム	44	Picture This Japan 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト
14	オリオリオルオル おりおり!おるおる!	46	特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜 未来に繋ごう、皆んなの!!歴史・文化・芸術!!～巻いてあるもの!?～
16	音楽スペースおとむすび 企画伴走プロジェクト「SPROUT」	48	ひよこの会 視覚障害児と一緒に作り出すインビジブルアートの開催
18	金沢区舞台芸術サークル「潮の音」 金沢区民参加ステージ2023	50	NPO法人ぶかぶか みんなでワークショップ
20	紙芝居文化推進協議会 第23回手づくり紙芝居コンクール	52	ほる実行委員会 ほってみる
22	黄金町BASE 黄金町BASE	54	まちなか立寄楽団 まちなか立寄楽団の「たちよってつくるコンサート2023」
24	ことぶき「てがみ」プロジェクト実行委員会 ことぶき「てがみ」プロジェクト	56	NPO法人ミニシティ+プラス ミニヨコハマシティ+アート2023
26	特定非営利活動法人シーホース工房 竹を愛でる。創る。奏でる。	58	Murasaki Penguin 「Stutter」コロナから、みんなのペースを考えるプロジェクト
28	しましまのおんがくたい あおばりあふりーコンサート	60	一般社団法人横浜若葉町計画 まちなかギャラリー2023
30	一般社団法人 ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館 ジャズ喫茶ちぐさの90年	62	Little Free Libraryはちのじぶんこ つなGO!はちのじライブラリー2023
32	Studio oowa実行委員会 アートプロジェクトstudio oowa	64	ROJIURArt実行委員会 「ロジウラート!」ウラアートでハートのキャッチボール!

ヨコハマアートサイトラウンジ

66	vol.38「農と生活とアート」	68	vol.40「音楽で超える、つなぐ～さまざまな人と音楽を～」
67	vol.39「イギリスのコミュニティ・アートから考える」	69	vol.41「遊んで育つ場をひらく」
70	季刊ヨコハマアートサイト		
72	採択事業一覧		

会社から地域へ まるごとギャラリー2023



片岡 操「TIME CAPSULE 2023 一木の実一」
沖セキ展示

アーティストネットワーク+コンパス

連絡先

URL <http://www.anc3434.com>
TEL 045-785-3434(担当:屋間)
Facebook <https://www.facebook.com/Anc3434>

団体紹介

「アーティストネットワーク+コンパス」のスタッフおよび外部アドバイザーで企画・運営。金沢区福浦界隈の産業地域にて特有の地域性を生かした活動を展開。アートを通じた企業・アーティスト・地域社会の充足を目的としている。アートを通じた企業・アーティスト・地域社会の充足を目的としている。近隣会社・工場とのつながりを築いていくことを目指して11年目、新たな試みの展開を考えている。

会期 2023年9月30日～12月31日

会場 【金沢区】横浜市 長浜ホール、泥亀公園、幸浦・産業振興センター・福浦・市大医学部前界隈
※そのほか、インターネット上で開催

参加アーティスト アツヤバクソク、上野彰子、片岡操、コントオル、しばたあい、田中清隆、中崎知佳

来場者数	1,346人
主催	アーティストネットワーク+コンパス
共催	横浜市 長浜ホール
後援	横浜市金沢区役所、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
協賛	山陽印刷株式会社、JCOM株式会社
協力	株式会社沖セキ、関東プリンテック株式会社、株式会社共立紙器製作所、有限会社協和タイヤ商会、山陽印刷株式会社、有限会社竹内紙器製作所、株式会社坪倉興業、鶴見金網株式会社、東海シャリング株式会社、株式会社メルヘン、株式会社柳川タイヤ、株式会社山装、株式会社ヨコハマ機工
実施イベント	9月30日：ワークショップ、10月28日～11月30日：会社から地域へまるごとギャラリー2023、11月11日：ワークショップ「Aozora Factory」、12月20日～12月31日：フォトコンテスト優秀作品公開

散歩中の足を止めて 工場の魅力を伝える屋外展示



上野彰子「閉じない目」
山陽印刷展示



中崎知佳「光のように 水のように」
横浜市 長浜ホール展示



アツヤ バクソク「Stone Ocean」
山装展示

開催11回目となった今年も、金沢区・福浦地区でアート作品の屋外展示を中心に企画を開催しました。

展示に協力してくれる会社・工場13社と、共催の長浜ホールの屋外スペースに計24作品を展示しました。今回は作品とともに「作品展示協力各社の紹介」シートを各会場に掲示し、各社の業務内容の概要と画像、各社のHPに誘導するQRコードを付け、観覧者に会社内容が分かるように工夫しました。また、この界隈にある魅力のスポットが見えるような「回遊MAP」を作成して区役所、ホール、地区センター、展示設置協力会社に設置しました。その効果もあって、地域の人たちの企画に対する認知度や知名度も上がりました。

今回新たに会場として加わった長浜ホールは周囲に公園もあることから、バードウォッチングやジョギングがてら屋外に設置された作品に足を止める住民も多かったです。近隣にありながら、福浦地区の活動にふれてこなかった人にも知っていただく機会になりました。

ウェブサイトでは、協力会社に質問を投げかけ、この地域で営業する会社の思いを閲覧者に伝えました。あわせて2013年から昨年までの本事業の記憶・記録資料を公開しました。参加作家個人がSNSを活用したことでアクセス数も増えています。

このほか、イベントとして「写真の撮り方・楽しみ方」をテーマにしたワークショップを開催するとともに、作品展示期間の作品写真と地域の写真のフォトコンテストを実施しました。また、金沢・泥亀公園にて開催された特定非営利活動法人Aozora Factoryによるイベントにもワークショップ企画で参加し、宣伝や告知を行いました。

福浦の産業地域の魅力が多くの人に届き、まちを巡りたくなる方法や可能性を探ることが、今後の課題です。これからも地域との連携の可能性をさらに広げるため、他団体や別地域とのコラボレーションができる環境づくりを進めます。

OUTBACKアクターズスクール



「スナック青い鳥」本番の様子
photo: 岡本千尋

OUTBACK プロジェクト

連絡先

URL <https://outback-jp.com/>
E-mail outback.info.2021@gmail.com

団体紹介

OUTBACKは、メンタルヘル스에不調を抱えている人々をさまざまな手法でサポートする団体です。特にパフォーマンス（主に演劇等）を通して、メンタルの不調から回復し、社会で活躍していくためのサポートプロジェクトを展開していきます。

会期 2023年7月2日～2023年12月24日

会場 【神奈川区】反町地域ケアプラザ【中区】あかいくつ劇場、横浜シネマリン

参加アーティスト 前原麻希、オノマリコ、西井夕紀子

来場者数	205人
主催	OUTBACK プロジェクト
協力	神奈川精神医療人権センター、紫雲会横浜病院
助成	神奈川県マグカル展開促進補助金
実施イベント	7月2日～12月17日：ワークショップ、12月23日～12月24日：第3回OUTBACKアクターズスクール横浜演劇公演

精神疾患・精神障害当事者が演劇で幸せを問う



「スナック青い鳥」本番の様子
photo: 岡本千尋



「スナック青い鳥」本番の様子
photo: 岡本千尋



練習の様子
photo: 岡本千尋

精神疾患・精神障害当事者による演劇作品をワークショップ形式で作り、上演しました。

ワークショップには18人が集まりました。若い人の参加も増え、LGBTQの当事者、高次脳機能障害当事者も参加したりと、昨年度からさらに個性豊かな人々が集いました。お互いの信頼関係を構築していくようなワークショップや、体を動かしたりするようなゲームなどを重ねていながら、オリジナルの劇をつくりました。今回のテーマは「幸せとは?」。幸せという漠然としたテーマを置くことで、障害当事者の経験の個性から普遍性を探ることを心がけました。また、精神科のある病院の患者たちにも同じ問いを投げかけ、詩をつくってもらい、劇中歌にしていきました。

ワークショップを経てできあがった作品「スナック青い鳥」と「愛と変容についてのラップバトル」は、あかいくつ劇場で上演しました。今年度は初めての試みとして、2本立てで2日間公演を行い、より多くの観客に観に来てもらうことができました。

1日目は、ゲストとして認知行動療法の精神科医を招いたことで、演劇にふだん関心のない人も多く訪れ、観客層を広げることができました。2日目は、音楽家を迎え、クリスマスにふさわしいアットホームな場をつくることができました。

精神疾患、精神障害に対する差別、偏見はまだまだ地域に根強くあります。こうした中で今回、各区に設置されている精神障害に特化した相談支援窓口である生活支援センターのスタッフなど、精神福祉領域で活動する人も公演を観覧し、強い関心を示してくれました。医療関係者とのつながりは大切で、新たな展開をつくれぬか、課題として取り組んでいきたいと感じています。

今後の可能性として、定期的なワークショップと並行しながら、市内の施設で巡回できるような上演形態ができないか模索を続けます。ポータブルな作品づくりを行い、上演とあわせて観客との交流の場をつくるのが理想です。

2023「路上の身体祭典H!」 新人Hソケリッサ! 寿町プロジェクト



寿町パフォーマンス
photo: 岡本千尋

任意団体アオキカク

連絡先

URL <https://sokerissa.net/>
 E-mail aokikaku2021@gmail.com
 Facebook <http://www.facebook.com/SOKERISSA>
 X <https://twitter.com/aokikaku>
 Instagram <https://www.instagram.com/sokerissayuukiaoki/>

団体紹介

路上生活経験者で構成されたダンスグループ〈新人Hソケリッサ!〉の企画制作を主軸に、公演やワークショップ等の活動を展開する芸術団体。個人が持つ身体を肯定し、それを活かす創作方法は、国内外で高く評価されている。

会期 2023年7月15日～2024年1月27日

会場 【中区】象の鼻テラス、横浜市寿町健康福祉交流センター多目的室、横浜市寿町健康福祉交流センター前広場

参加アーティスト 新人Hソケリッサ! (平川収一郎、渡邊芳治、山下幸治、西篤近、浜岡哲平、アオキ裕キ)、寺尾紗穂

来場者数	185人
主催	任意団体アオキカク
後援	NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、ヨコハマ経済新聞、LOCAL GOOD YOKOHAMA
協力	横浜市ことぶき協働スペース、認定NPO法人ビッグイシュー基金、公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流協会、象の鼻テラス(会場協力)
助成	神奈川県マダガル風開促進補助金
実施イベント	7月15日、8月20日、9月30日、10月28日、11月18日、12月28日、1月27日：新人Hソケリッサ! 寿町ワークショップ、8月22日：2021-2022「路上の身体祭典H!」新人Hソケリッサ! 横浜/東京路上ダンスツアー 報告会～横浜会場～、1月17日：寿町パフォーマンス

身体から その人らしさが にじみ出るダンスを



寿町パフォーマンス
photo: 岡本千尋



2021-2022「路上の身体祭典H!」新人Hソケリッサ!
横浜/東京路上ダンスツアー 報告会～横浜会場～
photo: 岡本千尋



寿町ワークショップ

寿町での取り組みは今年で2年目となりました。横浜市寿町健康福祉交流センターでは月に1回ダンスワークショップを開催し、1月にはセンター前広場でのダンス公演を行いました。

ダンス公演では歌手の寺尾紗穂とのコラボレーションが実現し、ダンスと弾き語りを組み合わせて、約1時間半のプログラムになりました。会場には100名ほどの観客が集まりました。事前に情報を知って訪れた人だけでなく、通りがかりに足を止めたり、交流センターの館内から窓越しに覗いている人も多くいました。ダンスだけでなく弾き語りがあったことで親しみやすさが生まれたことも要因の一つかもしれません。公演のフィナーレでは観客も加わってみんなで踊るという展開も生まれ、大盛況となりました。

月に1回のワークショップではこれまで地域外からの参加が多かったのですが、ダンス公演の翌週は地域内からの参加者も現れ、過去最多の17名が集まりました。なかにはパフォーマンス出演にも興味があるという人もおり、今後の活動の進展が期待されます。

夏には昨年度までの活動をふりかえり、団体の活動姿勢や、企画の背景にある問題意識、今後のビジョンなどを発信するために報告会を開催しました。メンバーやスタッフによるトークに加え、2021～2022年度に行った路上ダンスツアーの記録映像上映、舞台美術と写真の展示も行いました。ツアー記録映像は、多言語字幕/バリアフリー字幕/音声ガイド付きでオンライン配信もしています。象の鼻テラスを会場としたことで、カフェや休憩所の利用者も立ち寄り、新たな層との出会いのきっかけともなりました。地域外にも活動の様子を届け、関心を喚起できたことは成果です。

今後も寿町でのワークショップを続けつつ、地域外での公演も行うことで活動の周知につなげたいと考えています。団体としては海外での公演も視野に入れています。路上生活経験者の身体による表現を通して問題意識を投げかけながら、ダンスによる対話を続けます。

第十回あっぱれフェスタ



4団体によるコラボステージ、あっぱれ音頭「打楽器バージョン」
photo: 河邊剛宏

あっぱれフェスタ実行委員会

連絡先

URL https://www.youtube.com/channel/UC_-rcvX5leB-4qzhkwcMUog
TEL 045-953-6666
E-mail apparefestaasahi@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/100089052095416>
X <https://twitter.com/apparefesaahi>
Instagram <https://www.instagram.com/apparefestaasahi/>

団体紹介

障害がある人たちが通っている事業所のことを地域に暮らすみなさんに知ってもらいたいと、旭区の障害福祉のネットワークにより発足。相模原事件への応答として、事件の翌年2017年からは、さらに「舞台表現」や「ものづくり」を用いた「一人ひとりの肯定」を目指している。

会期 2023年9月13日～2024年1月25日

会場 【旭区】地域活動支援センターほわほわ、活動ホームあさひ、地域活動支援センターむくどりの家、活動ホームふたまたがわ、マインド葦、空とぶくら社、サポートセンター連、第2まどか、旭区福祉保健活動拠点ぱれっと旭、旭公会堂【中区】就労支援B型IKIKIカンパニー

参加アーティスト 岩井秀人、笠木泉、加藤未礼、木皮成、倉品淳子、白神ももこ、中野敦之、西井夕紀子、長谷川優貴、山本卓卓、若鍋久美子

来場者数	1,181人
主催	あっぱれフェスタ実行委員会
共催	旭区役所・旭区社会福祉協議会
後援	旭区地域自立支援協議会
協力	旭区内の地域ケアプラザの地域交流コーディネーター連絡会
助成	神奈川新聞厚生文化事業団
実施イベント	8月22日、9月26日、10月3日、10月10日、10月24日、10月31日、11月28日、12月12日：ほわほわワークショップ、9月13日、10月13日、11月15日、11月30日、12月15日：コラボワークショップ、9月27日、11月30日：むくどりワークショップ、9月29日、10月6日、11月10日、12月8日：ものづくりワークショップ、10月11日、11月22日、12月8日、12月13日：マインド葦ワークショップ、10月13日、11月10日、12月1日、12月15日：くじら社ワークショップ、10月19日、11月3日、12月14日：連ワークショップ、10月20日、11月9日、12月20日：まどか工房ワークショップ、10月22日、11月26日、12月5日：はっぱオールスターズワークショップ、12月20日、12月22日：第10回あっぱれフェスタ、1月25日：第10回あっぱれフェスタ振り返りの会

旭区の福祉と地域が アートでつながる フェスティバル



D-1グランプリ・エントリー③
ヌードルズ(マインド葦)による歌謡ショー
photo: 河邊剛宏



D-1グランプリ・エントリー①
劇団れん(サポートセンター連)による演劇
photo: 河邊剛宏



「自慢の有名人」展
ものづくりワークショップによるプロダクツの展示

舞台表現ワークショップは8ヶ所の障害福祉事業所等にアーティストを招き、メンバー（利用者）とスタッフを対象として実施されました。アーティストとの対話を重ねる過程で、参加者の発想がかたちとなり、演技により知られざる魅力が現れることで、その人らしさを再発見することができました。支援される場面が多い障害のある人にとって、自分を丸ごと肯定される経験はとても大切なことだと考えています。またメンバーのみならずスタッフにとっても、コミュニケーションのあり方に重要な気づきが得られたとの声が寄せられています。

ものづくりワークショップは障害福祉事業所のスタッフを対象に実施しました。この企画は「自慢の有名人」と題して、施設の利用者のひとりを魅力的に紹介することをテーマに行いました。ふだんは問題とされる行動も角度を変えて見ることで、パフォーマンスとしてユニークに発表したり、利用者が描いたイラストを組み合わせることでその人らしさを伝えたり、ものづくりを通して「一人ひとりを肯定する」ことができたと思います。

12月には「第10回あっぱれフェスタ」を旭公会堂と旭区福祉保健活動拠点ぱれっと旭であわせて2日間開催しました。ワークショップでできた作品の上演や展示、そして各事業所のお菓子や製品の出店も行いました。舞台表現の上演は「D-1グランプリ」と題したコンテスト形式を取りましたが、演劇、ダンス、歌などジャンルレスな表現が入り混じり、個性豊かで白熱したコンテストとなりました。

コロナ禍を経て4年ぶりに対面開催のあっぱれフェスタとなりましたが、多くの人が参加し熱気を取り戻すことができたと感じています。実施を通して、スタッフとして参加したいという申し出も多くなりました。これからもアートを通して旭区の福祉事業所同士の連携を深めつつ、障害のある人への理解を地域の中に浸透させていきたいと考えています。

ONO POINT ART SPACE



井上尚子展「語るにおい、街のきおく」展示風景
photo: Hisako Inoue

WeTT実行委員会

連絡先

URL <https://onopoint.jp/>
 TEL 045-521-7580
 FAX 045-521-7566
 E-mail ts-info@wetre.es.net
 Instagram <https://www.instagram.com/onopoint/>

団体紹介

JR鶴見線「鶴見小野駅」改札から徒歩10秒の立地で、1階は飲食店、2階はアートスペースとして運営。ここでは、街づくりを推進する拠点の一つとして展示会の企画開催、トークイベント、ワークショップ等を中心とした活動を行ってまいります。

会期 2023年7月2日～2024年1月31日

会場 【鶴見区】ONO POINT ART SPACE、小野町通り共栄会周辺、横浜市立下野谷小学校、ヨシミ美容室

参加アーティスト 原倫太郎、Alex Sonderegger、ししょーと弟子ギャル（高橋信雅、大越あすか）、井上尚子

来場者数	905人
主催	WeTT実行委員会
後援	鶴見区役所
協賛	横浜小売酒販組合組合鶴見支部、カリモク家具株式会社、横浜鶴見リハビリテーション病院、鶴見消防団、AGC株式会社、プリンス電機株式会社、川崎鶴見臨港バス株式会社、東亜合成株式会社、JFEエンジニアリング株式会社、トヨタモビリティ神奈川、株式会社伊藤園、小野町通り共栄会有志
協力	横浜市瀬田地区センター、ダスキン東寺尾支店、これつる、鶴見消防団、資源循環局鶴見事務所、企画協力：原倫太郎、象の鼻テラス
実施イベント	7月2日～8月19日：ししょーと弟子ギャル鶴見エナジーポイント、10月11日、11月15日、12月20日～1月31日：語るにおい、街の記憶井上尚子展、10月14日～1月10日：Connecting dots in Tsurumi アーカイブ展示、11月11日：したのやまつり

新しい拠点から まちの風景を アートで彩る

今年度の活動は、2022年に構えた拠点「ONO POINT ART SPACE」の運営を軸に行いました。例年まで、年に一度のフェスティバルを行っていましたが、地域の日常の中にアートを浸透させる方針とし、拠点を構えて通年でアートプロジェクトを展開しました。

「ししょーと弟子ギャル『鶴見エナジーポイントプロジェクト』」では高橋信雅と大越あすかの2人のアーティストがまちの中にグラフィックデザインを施し、会場ではコンセプトボードの展示とプロジェクトの案内を行いました。制作では地域の人を巻き込み、まずキャンパスとなる街の清掃からスタート。その後、街のさまざまな場所にハートや星の模様がちりばめられました。

「井上尚子展『語るにおい、街のきおく』」では“におい”をもとに表現活動をする井上尚子が地域の人にインタビューを行い、その内容を展示しました。時代とともに変化する鶴見の街と、ここに住む人の人生をにの記憶からふりかえり、その軌跡を辿りました。

「Connecting dots in Tsurumi 2021/2022のアーカイブ展示」は地域からの要望もあり、今年も開催しました。過去に作成した中から選りすぐりのメッセージを選んでピンクのドットシールを再度制作し、商店街の協力店舗に張り巡らせました。

下野谷小学校のイベント「したのやまつり」では桑沢デザイン研究所の学生を中心としてギフトボックスをつくるアートワークショップを開催しました。

全てのプロジェクトにおいて制作作業に地域の人を巻き込んだり、展示の対象として地域の方にスポットを当ててみたり、積極的に活動を開きました。それにより、これまでは遠巻きに様子を見ていた方も含め、継続的に参加してくれる地域の方が増えました。

今後は地域内だけでなく、アートに関心のある他地域の人も呼び込むことで、まちに新しい視点を盛り込み、鶴見らしさの再発見と魅力の創出を目指して活動を続けたいと考えています。



ししょーと弟子ギャル展
「鶴見エナジーポイントプロジェクト」制作風景
photo: Takuya Unuma



井上尚子展「語るにおい、街のきおく」
ワークショップ風景



地域のイベント参加風景

EduArt :グローバルシティズンシッププログラム



SDGs#6「水のめぐり」をダイナミックに表現する、中山小学校1年生
photo: 高橋竜風

EduArt

連絡先

URL <https://www.eduart.jp>
 E-mail info@eduart.jp
 Facebook <https://www.facebook.com/EduArtJapan>
 X https://twitter.com/EduArt_japan
 Instagram https://www.instagram.com/eduart_japan/

団体紹介

EduArt (エデュアート) は「子どもたちが世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できるグローバルシティズンとなる未来」を願って生まれたアート教育NPOです。

会期 2023年7月6日～2024年1月21日

会場 【中区】7artscafe【西区】横浜市立西前小学校、横浜市立みなとみらい本町小学校【神奈川区】横浜市立菅田の丘小学校、横浜市立神橋小学校、横浜朝鮮初級学校、横浜市立青木小学校【港北区】横浜市立師岡小学校【緑区】横浜市立中山小学校【鶴見区】横浜市立平安小学校

参加アーティスト 望月実音子、野村麻友、早川潤

来場者数	612人
主催	特定非営利活動法人EduArt
協力	横浜市立平安小学校、横浜市立青木小学校、横浜市立中山小学校、横浜朝鮮初級学校、横浜市立師岡小学校、横浜市立みなとみらい本町小学校、横浜市立西前小学校、横浜市立神橋小学校、横浜市立菅田の丘小学校
実施イベント	7月6日、7月7日: 未来のサステナブルシティをつくろう、7月16日: フルイドペイントで海を描こう!、8月29日～8月31日、9月14日、9月15日、9月28日、10月2日、10月11日～10月13日、10月19日、10月20日、10月23日: SDGsquares、9月7日: SDGs #6 水のめぐり、9月20日、12月15日、1月15日: 廃材アートをつくろう、10月6日、11月10日、1月17日: マスコットキャラクター、10月22日: パンクフレンドをつくろう!、11月12日: 秋の祭りモザイクアート、12月10日: 北極圏のジオラマ作り、1月21日: 空想世界のコラージュ

遠かった課題を アートで自分ごとに

子どもたちが世界の一員として、地球、社会、そしてお互いを尊重できる未来を実現するために、学校連携事業と多文化共生アート事業に取り組みました。

今年度、学校連携事業では、9校の小学校にプログラムを届けました。中山小では「水のめぐり」をテーマに、全長13メートルの透明シートをテントの脚に張りめぐらせ、地球上を循環する水をダイナミックに表現しました。平安小では「未来のサステナブルシティと作ろう」と題し、みんなが幸せに暮らせる都市を廃材で表現しました。青木小では、在日朝鮮人の元プロサッカー選手をゲストに招き、レクチャー「サッカーで国境を超える」を行いました。横浜朝鮮初級学校、みなとみらい本町小、西前小では、地球の誕生から現代まで生命の歴史を見つめ、地球と人類の存在意義について考える「地球レクチャー」を入口に、SDGsの17項目を廃材で表現する「SDGsquares」を実施しました。師岡小、神橋小、菅田の丘小では、総合学習の授業と連携した授業を行いました。

また多文化共生アート事業では、前年に引き続き、中区のギャラリーカフェ「7artscafe」にて、ミックスルーツを持つ家族を対象にアートワークショップを全5回開催し、親子が多様なテーマや手法で自由に表現する場所を提供しました。

特に小学校の総合学習で取り組んだ「SDGsquares」は、授業の内容がどのように社会全体とつながっているか、遠かった課題を自分ごととして捉えられるようになる活動なのだ、あらためて発見する機会にもなりました。今後も、さまざまな分野の学びをアートで横断することの可能性を実証していきたいと考えています。

団体としては、保育園でのアート事業が拡大するなどNPOの運営体制は整ってきたものの、学校連携プロジェクトは資金が不足しており、持続可能な活動の継続のために事業が自立できる仕組みをつくるのが課題になっています。



元プロサッカー選手、安英学氏と考える「共生」、青木小学校6年生
Photo: 早川潤



一人ひとりの思いを形に、特別アート授業「SDGsquares」西前小学校4年生
Photo: 早川潤



作品に込める思いを語る、横浜朝鮮初級学校6年生
Photo: 早川潤

おりおり!おるおる!



糸作りの会での作業の様子

おりおりおるおる

連絡先

TEL 080-5010-3054
 E-mail orinas2022@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/100092751004451>
 Instagram <https://www.instagram.com/oriorioruoru23>

団体紹介

東京藝術大学履修証明プログラムDOORにて「アート×福祉」を学んだ仲間がアートプロジェクト実践の場としておりおりおるおるを発足しました。私たちが培ったアート表現、福祉の学びを基盤としながら障害のある人ない人のアート活動をサポートして行きます。

会期 2023年7月9日～2024年1月24日

会場 【青葉区】神奈川県立あおば支援学校、寺家ふるさと村、あおばコミュニティテラス【緑区】みどり福祉ホーム

参加アーティスト

来場者数	158人
主催	おりおりおるおる
協力	神奈川県立あおば支援学校、YaiYai、ぐるーぷ・もこもこ・青葉会、寺家田んぼ“Oむすび”
実施イベント	7月9日：卓上織り機制作、8月31日：糸作りの会、9月14日：みどり福祉ホームWS、9月27日、10月4日、10月25日、11月22日、11月29日、12月13日：あおば支援学校中部授業、10月29日：寺家田んぼ“Oむすび”稲刈り体験WS、11月2日～11月3日：あおばフェスタWS、12月17日：あおばコミュニティテラスWS、1月24日：あおば支援学校中部公開授業

自作の卓上織り機で ともに手を動かす時間



寺家田んぼWSで制作されたモチーフタベストリー



コミュニティテラスWSの参加者とその作品



コミュニティテラスWSでの制作の様子

布を「裂く」「糸をつくる」「織る」という制作過程の一つひとつの手作業を、障害のある人が安心できる場所で、信頼のおけるさまざまな人々との関係性の中に展開するプロジェクトを行いました。

まず、障害のあるなしにかかわらず幅広く活用できる自作の卓上織り機20台をリサイクルの材料を使って製作しました。ワークショップなどで、複数台並行して進行することができ、制作の進み具合がばらばらな対象者にも十分な個別対応ができる体制を整えました。

あおば支援学校での取り組みでは、集めた古布を裂いて織り糸をつくる糸作りの会の活動を経て、中学部1年生の地域交流の授業にいどみました。地域の協力者とともに卓上織り機で、手提げ袋やモチーフタベストリー、巾着を制作し、家族や先生ではない大人との交流を広げられました。協力者の方にとっては、ふだん関わる事がなかった支援学校への理解を深める機会になりました。反響も大きかったため、一部が公開授業となり、多くの見学者に恵まれました。

また、みどり福祉ホームでは施設利用者を対象に、寺家ふるさと村の「寺家田んぼ“Oむすび”稲刈り体験ワークショップ」では稲刈り体験参加者に、あおば支援学校での「あおばフェスタワークショップ」では支援学校の児童生徒、保護者、来場者に向けて、それぞれモチーフタベストリーを制作するワークショップを行いました。寺家とあおばフェスタの企画は過去にワークショップを実施した経緯があり、継続して参加した方からは、織り機や織り道具の改良、横糸の種類の実験等をほめていただきました。

思いもかけず団体の事業が通年に渡って拡張したこともあり、来期の予算計画には抜本的な見直しが必要であるとも感じています。

一方で、織りの表現と手仕事の試みは、多方面から関心を持っていただくことができました。障害の有無を問わず、ともに手を動かす時間を持ちたいと考えています。

企画伴走プロジェクト「SPROUT」



木のタンバリン「マニャンガ」をつくろう

音楽スペースおとむすび

連絡先

URL <https://www.otomusubi-yokohama.com/>
 TEL 070-4343-6698
 E-mail otomusubiyokohama@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com//otomusubi.yokohama/>
 instagram https://www.instagram.com/otomusubi_yokohama

団体紹介

人と音楽の縁結び、音楽を通した人と人との縁結びを活動理念にあげ、多様な人たちが気軽に音楽と接点を持てるよう拠点「音楽スペースおとむすび」をつくり企画運営をしています。スタッフの多くが学会認定の音楽療法士です。

会期 2023年12月17日～2024年1月8日

会場 【泉区】音楽スペースおとむすび

参加アーティスト 今村ゆかり、小柳玲子

参加者数 35人
 主催 音楽スペースおとむすび
 実施イベント 12月17日：音をきいて絵を描こう、1月8日：大正琴を弾いてみたい、木のタンバリン「マニャンガ」を作ろう

自分の思いつきを 小さなアートプロジェクトに



大正琴を弾いてみたい



音をきいて絵を描こう



音をきいて絵を描こう

活動拠点である音楽スペースおとむすびで、アマチュア音楽愛好家など、一般の方々のアイデアを共同企画として後押ししながらイベントを実施しました。単なるサポートではなく、できるだけ多くの人との関わりが生まれるよう支え、企画者の地域への関心や接点を増やしました。ウェブサイトや紙媒体でプロジェクトへの参加を募り、最終的に3件の支援につながりました。

1つ目の企画は「音をきいて絵を描こう」です。障害のある人に向けて絵画指導を行っている地域の住民が、障害の有無を超え人々がともに参加できる活動を行いたいという希望があり、即興的に音（音楽）を聴きながら絵を描くワークショップを行いました。事前にスタッフでリハーサルを行うなどのサポートをしました。

2つ目は「大正琴を弾いてみたい!」。友人の実家処分でもらった大正琴を弾けるようになりたいと地域の方が応募した企画です。当日は家族や知人の遺品として楽器を持った方々もおり、導入的な指導のもと「さくらさくら」を演奏しました。スタッフは、楽器の素材集めを行うなど、実施までのプロセスを企画者の希望に沿ってともに丁寧に進めました。

3つ目は、不登校の子どもの保護者である地域の方が、まずは大人がつながり元気になることが必要だと考え、自らの打楽器演奏の経験を生かし、楽器づくりのワークショップを行った企画「マニャンガを作ろう」でした。

自分の思いつきがかたちとなり参加者からのフィードバックが得られたことで、次への構想が膨らんだ企画者もいました。地域の中で自分のアイデアを発揮する体験が、この先の地域への関与の仕方にも影響があると感じます。一つひとつは小さなプロジェクトですが、単に既存の活動に参加するだけでは得られない経験をサポートできました。イベント開催の経験がない方を伴走するには、運営上のノウハウだけでなく心理的バックアップが必要で、またそれは企画者のエンパワメントにつながることを今回の企画を通じて感じました。

金沢区民参加ステージ2023



金沢区民参加ステージ2023・第3幕

金沢区舞台芸術サークル「潮の音」

連絡先

URL <https://shionone.jimdofree.com/>
 TEL 045-783-6484
 FAX 045-783-6484
 E-mail taki_yumiko@jcom.zaq.ne.jp

団体紹介

ジャンルの違う「街の先生」が集まり、金沢区の民話を音楽劇にして子どもたちを含む公募の区民と一緒に公演。文化的な情操教育にもつながる稽古を重ね、区民のみさんに提供。新しい仲間も増え、少しずつ若い世代に引き継ぐことも念頭に、老若男女で楽しんでいます。

会期 2023年7月2日～2023年9月3日

会場 【金沢区】柳町ケアプラザ、金沢文庫、称名寺、横浜市金沢公会堂

参加アーティスト 滝澤右弥子、北川龍夫、水谷亮介、飯村さち子、坂東幸美都、坂東加代寿、白井梨沙

来場者数	645人
主催	金沢区舞台芸術サークル「潮の音」
後援	横浜市金沢区役所
協力	神奈川県立金沢総合高校、金沢シティガイド協会、柳町ケアプラザ、金沢区生涯学習支援センター
実施イベント	7月2日～8月27日：金沢区民参加ステージ2023の稽古、7月8日：公演に向けての歴史探索、8月27日：デイサービスでの演技披露、9月2日：金沢公会堂での前日リハーサル、9月3日：金沢区民参加ステージ2023公演

大人も子どもも 金沢区の歴史を 楽しむ舞台



金沢区民参加ステージ2023・第2幕



柳町ケアプラザでの稽古風景



歴史探索金沢文庫、称名寺へ徒歩で

金沢区舞台芸術サークル「潮の音」は、金沢区に伝わる民話もとにした音楽劇を上演する団体です。

今年度は金沢文庫を舞台に「うなぎの井戸」「大道の関所」の2つの民話を扱った作品「金沢文庫～わたしの夏休み～」を上演しました。鎌倉時代から現代に至るまでの時代を舞台に小学校の夏休みを過ごす女の子がタイムスリップするというストーリーです。昨年度まで劇伴は和楽器を中心としていましたが、今回は金沢総合高校の先生と卒業生が参加し、洋楽器を備えたオーケストラとなりました。これまで出演者の多くは地域の子どもたちや金沢区に登録された街の先生たちでしたが、今年はここに大学生や若者も参加しました。

演劇公演の後の第2部では日本舞踊や和楽器などそれぞれの個性を生かしたジャンル別競演ステージも行いました。ここでは地元のキッズダンスグループの発表もありました。

スタッフの高齢化が課題となっていましたが、大学生やキッズダンサーの参加により参加者、客層ともに平均年齢は大きく下がりました。

観客からは「金沢区の歴史がわかってよかった」「こんな歴史があったとは知らなかった」等の感想が寄せられました。

金沢区の民話を深く知ってもらうため、歴史探索のイベントも行いました。金沢八景駅から金沢文庫まで、その途中にある歴史的建造物と関連する民話を学びながらまちを歩きました。コロナ禍でしばらく中止していた外部での公演も再開しました。今年度は高齢者施設を訪れ、子どもたちによる短い民話の演劇や歌を届ける活動を行い、とても好評でした。

今後の目標は異なる世代や団体との連携を行うことです。障害者施設等で公演を行ったり、子どもたちが参加する他団体とのコラボレーションでイベントを開催するなど検討しています。今後も舞台を通して多様な交流を実現することを目指しています。

第23回手づくり紙芝居コンクール



見事な絵と元気な実演で大賞受賞
photo: 小幡崇

紙芝居文化推進協議会

連絡先

URL <https://kamibunkyo.jimdofree.com/>
TEL 080-5504-6168
E-mail kamibunkyo@gmail.com

団体紹介

神奈川県立図書館が20年間実施してきたコンクールが諸事情で休止となったのを惜しみ、存続を願う市民、企業等が協力して設立。会員は全国におり、コンクールのほか、公演・講座の企画運営や広報誌やHPでの情報発信等により、紙芝居を普及する活動をしている。

会期 2023年11月3日～2024年1月20日

会場 【南区】横浜市南図書館【西区】神奈川県立青少年センター
※そのほか、オンライン・インターネット上で開催

参加アーティスト 長野ヒデ子、やべみつのり、ときわひろみ、宮崎二美枝、山本祐司

来場者数	1,271人
主催	紙芝居文化推進協議会
共催	神奈川県立青少年センター
後援	神奈川県立図書館協会、株式会社神奈川新聞社、一般財団法人文民教育協会子どもの文化研究所、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、横浜賀市教育委員会、横浜市にぎわいスポーツ文化局、一般財団法人出版文化産業振興財団
協賛	べんてる株式会社
協力	横浜市歴史博物館
助成	令和5年度神奈川県文化芸術活動団体事業補助金
実施イベント	11月3日：手づくり紙芝居ライブ、11月25日～11月26日：全応募作品の展示会、11月25日：あなたが主役の実演会、紙芝居クリニック、コンクール記念冊子の発行、11月26日：手づくり紙芝居コンクール実演審査会、12月28日～：コンクール報告動画の配信、1月20日：オンライン紙芝居クリニック

手作りの紙芝居 みんなで集って 熱気を共有



笑顔いっぱいの受賞者と審査員
photo: 小幡崇



プレ・イベントで作家のアドバイスを受ける



リラックスして観る手づくり紙芝居ライブ

第23回目となった「手づくり紙芝居コンクール」。実演審査会は定員を超える大盛況となりました。ジュニアの部では、子どもたちが表情豊かに楽しんで表現している姿が感動を呼びました。一般の部ではベテランに混じって、高校生や初応募の新鮮な実演が光り、ジュニアも一般も甲乙つけがたく審査は難航しました。今年から「横浜市歴史博物館賞」を新設し、コンクールに街頭紙芝居の視点も盛り込んでいます。横浜市歴史博物館との連携は事業外でのイベントにも発展し、今後の展開が期待されます。

入選を逃した作品が主役となるイベントも行いました。審査会の前日に行った実演会では、言語学習に紙芝居を生かした作品など10名が自作を披露しました。午後は作家によるアドバイスコーナーも設けました。後日行った、オンライン紙芝居クリニックでは病後で遠出できない応募者や、遠方からの応募者などがオンラインでつながり、作家のアドバイスを聞いたり、参加者同士の交流を深めることができました。また記念冊子発行・紹介動画のYouTube公開も行いアーカイブを残しました。

手づくり紙芝居ライブは横浜市南図書館にて開催しました。第1部では11名が自作の紙芝居を発表し、第2部では作者と地域の人たちが紙芝居の活用について熱心に話し合う場面もありました。横浜市南図書館での紙芝居の取り組みは10年目になり、地域に定着したことを実感しています。

これまで応募者・観客・スタッフの高齢化が課題となってきましたが、今年は10代～40代の応募者が増加しています。そのためか客席にも若い世代が目立ちました。また学校での紙芝居の活用も進んでいます。アンケートには「紙芝居の奥深さと可能性を初めて知った」という率直な感想が多く寄せられました。また、参加者がコンクール運営の趣旨に賛同して会員になる事例も多くなりました。資金調達も含めて今後の運営を支えるメンバーが現れることを期待しています。

黄金町BASE



出張ベース写真
photo: 林 淳一郎

黄金町BASE

連絡先

URL <https://www.koganechobase.com/>

E-mail koganechobase@gmail.com

団体紹介

黄金町エリアで地域と関わりながら活動していたアーティスト山田裕介、杉山孝貴と、NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンター元スタッフの水谷朋代、李智希の4人が始めたプロジェクト。まちの子どもたちと関わり出して自分たちが感じた課題意識をもとに始動した。

会期 2023年7月1日～2024年1月31日

会場 【中区】1の1スタジオ、かいだん広場、初音ウィングB-2スタジオ【旭区】左近山アトリエ131110

参加アーティスト 山田裕介、杉山孝貴、林淳一郎、宮崎輝（いるかパーク）

来場者数	400人
主催	黄金町BASE
協力	NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター
実施イベント	7月1日～1月26日：黄金町BASE、7月19日、8月16日、9月20日、10月18日、11月15日、12月20日：出張BASE、11月17日：記録映像の撮影、12月28日～12月30日：黄金町BASE展示会

ものづくりの場 第一世代は大学生に



出張ベース写真
photo: 林 淳一郎



黄金町BASEでらんかい
photo: 林 淳一郎



出張ベース作品
photo: 林 淳一郎

国籍や家庭の経済状況にかかわらず誰もが「ものづくり」にふれ創造性を発揮し、自ら考えかたちにする力を学ぶ機会を提供するとともに、学校でも家庭でもない場所として多様な価値を受け入れる居場所をつくるため、黄金町BASEを開きました。

週1回から2回、地域から集めた廃材を利用し、子どもたちが自由にもものづくりができるこの場には、240人あまりの子どもが来訪しました。今年度は、中学生や高校生が訪れることが多くなりました。参加人数はあまり伸びませんでした。今年度は、中学生や高校生が訪れることが多くなりました。参加人数はあまり伸びませんでした。今年度は、中学生や高校生が訪れることが多くなりました。参加人数はあまり伸びませんでした。

近隣の学童施設とも少しずつ連携が取れるようになりました。職員が、私たちの技術や子どもたちの発想に驚き、似た場所つくりたいと、ものづくりの道具を施設に揃えようとしている様子もみられました。

また、旭区・左近山アトリエ131110へ「出張BASE」として出かけ、廃材を使用し、近隣に住む子どもたちのものづくりによる制作の場、コミュニケーションの場を開きました。月に1回のペースででしたが、参加人数も増え、この日を待っていてくれる子がいたり、作品をいったん持ち帰り再び家から持ってきて再構成するような熱心な子どももいました。「仕事が好きになった」という声には手ごたえを感じました。

左近山と黄金町、写真と立体物が混じり合った年末の展示会では、さまざまなアーティストやまちの子どもたちが訪れ、にぎわいを見せました。2016年から続いているBASEの子どもたちは、いまや大学生や高校生となりました。大人になりつつある彼らと、新たな活動ができればいいと思いました。

展示会で活用した写真記録はこれからも増えていくため、いずれ写真集にしたいです。また、動画サイトに中高生とともにチャンネルを持ち、黄金町BASEの制作動画を上げたいとの構想もあります。いずれにしても運営面での課題は多く、次世代の黄金町BASEに関わる人数を増やしていく必要があると感じています。

ことぶき「てがみ」プロジェクト



誰が羊を食べたのか?上演風景
photo: 金川晋吾

ことぶき「てがみ」プロジェクト 実行委員会

連絡先

URL https://www.youtube.com/@kotobuki_tegamiproject7646

E-mail tegamiproject@yahoo.co.jp

団体紹介

中区ことぶき共同診療所デイケアメンバー、医療福祉スタッフを中心に互いに「対等な立場」を意識しながら、「てがみ」を意識したワークショップおよび発表会をことぶき地区で開催している。

会期 2023年7月13日～2023年12月17日

会場 【中区】横浜市寿町健康交流センター、ことぶき共同診療所デイケア
※そのほか、オンライン上で開催

参加アーティスト 松尾慧、藤井良行、豊田一也、堀江進司

来場者数	311人
主催	ことぶき「てがみ」プロジェクト実行委員会
協力	医療法人ことぶき共同診療所、若葉町ウォーフ、横浜市寿町健康福祉交流センター
実施イベント	7月13日～9月10日:ことぶき「てがみ」ワークショップ、9月23日:てがみワークショップ発表会「誰が羊を食べたのか?」、12月17日:発表会ビデオ上映会と対談、12月30日:Youtube配信

診療所のデイケアから発信する ウィグル民話の世界

ウィグル民話「誰が羊を食べたのか」を核として、ワークショップを重ねながら、観客参加型の発表会を開催しました。ことぶき共同診療所デイケアメンバーやその関係者のエンパワメントとともに、ことぶき地区で演劇を通じた対話交流の場づくりを目指しました。

診療所のデイケアメンバーとの創作には2ヶ月ほどかけました。民話を読み進めつつ、内容についてメンバーやスタッフ、ワークショップ講師とともに話し合い、意見を述べ合いながら舞台のセリフを考え、物語を発展させていきました。短い民話を読む中で、登場人物を通して自己を表現していく過程は、スタッフ任せでない参加者の能動的な参加の高まりを感じさせました。

演劇の発表会では、演出サイドから劇中に観客の意見を伺うシーンを取り入れる試みを行いました。多くの観客が自らの意見を述べてくれました。終演後も出演者と観客の間でやり取りが続きました。

そのほか今年度は、一般向けのワークショップも開催しました。デイケアスタッフでもある大学講師に寿町のまちの歴史や現在のまちの現状のミニレクチャー、簡易宿泊所の見学等をお願いしました。まちあるきをした後に、グループでまちの印象やそこから喚起される物事の聞き書きを行う内容でした。

12月のビデオ上映会では、演劇作品の演出家と写真家の対談を行いました。近隣住民も興味を持って参加してくれました。

今年度は、演劇的なフィクションの世界で自己を表現してもらうかたちに振り切りました。一方で来年度以降は、事業スタート時のような「個人的な語り」に注力することも検討しています。語りは、本人にとっては自己肯定感を高めたり、他者との新たなコミュニケーションの回路が拓かれる可能性もあり、観客にも新たな認識や価値の発見を可能にするからです。

また、この活動を寿町以外にも広げていく可能性も探りたいと考えています。



誰が羊を食べたのか?上演風景
photo: 金川晋吾



誰が羊を食べたのか?上演風景
photo: 金川晋吾



誰が羊を食べたのか?上演風景
photo: 金川晋吾

竹を愛でる。創る。奏でる。



紙芝居ミュージカル上演前の集合写真

特定非営利活動法人 シーホース工房

連絡先

URL <https://www.seahorse-covo.com/>
 TEL 080-6664-3725
 E-mail kuramochi@seahorse-covo.com
 Facebook <https://www.facebook.com/seahorse.covo/>

団体紹介

自然再生の竹間伐、竹や身近な素材を利用した楽器製作、音楽と紙芝居による表現創造活動を通して、障害のある人もない人も共に集い、働く場の創出を目指すNPOです。このたび学ぶ・創る・表現する「未来音楽アートサロン」を開始いたしました。

会期 2023年7月16日～2023年10月15日

会場 【中区】山手アートプラットホーム【緑区】来慶山忠暘院

参加アーティスト 天然ダンス工房

来場者数	45人
主催	NPO法人シーホース工房
共催	IKI-IKIカンパニー、はっぼオールスターズ
協力	来慶山忠暘院、天然ダンス工房、認定NPO法人横浜移動サービス協議会
実施イベント	7月16日、8月20日、9月17日：未来音楽&アートサロン、10月15日：禅林のシンフォニー

障害の有無を超えて 竹と音楽で つながる時間



紙芝居ミュージカル上演中



アートバルーンの販売



未来音楽アートサロンの楽器づくり風景

今年度もアートによる竹の活用を中心として、障害の有無にかかわらず多様な参加者とともにさまざまな取り組みを行いました。

今回は年に1回のイベントだけでなく、日常的な場づくりに向けた試みとして「未来音楽&アートサロン」と題した定期的なワークショップを開催しました。前半では県内で採れた竹をつかってベトナム発祥の竹木琴や笛などの民族楽器の手づくり体験を行い、後半ではPCのプログラミングで音をつくるワークショップを実施しました。一日の最後にはそれぞれが製作した楽器や音を鳴らして全員でセッションを行い、竹でつくる音と数式を打ち込む音の違いを楽しみました。

禅林のシンフォニー2023は3回目となる今回も来慶山忠暘院別院集悠庵で行いました。今年は地域の秋祭りと同時に開催したことで、地域の新しい層の参加もありました。オープニングではコンテンポラリーダンスのダンサーを招いて、ワークショップで製作した電子音や竹楽器を生かした音楽に合わせて即興のダンスの上演を行いました。例年行っている紙芝居ミュージカルは30分に及び、団体としては今までで最大規模の作品を発表しました。今回は活動のテーマである「竹」に焦点を当てた昔話のような物語を創作し、竹の魅力を伝えました。障害のあるメンバーも含めて20名以上の演者が舞台上がり、朗読と実演、そして竹と電子楽器の演奏を行いました。演出では小道具にも竹を生かして、竹かごを背負った村人も登場しました。会場では竹あかりや竹楽器の展示も行い団体の活動の紹介にもつなげました。

今回初の試みとして行った「未来音楽&アートサロン」のワークショップでは子どもの参加を前提としていましたが、実際には大人の参加者の割合が高かったことから、今後は大人向けの楽器づくりの講座を開くことも検討しています。また大きなイベントだけでなくミニ演奏会なども開くことで知名度を上げ、団体をサポートしてくれる人を増加させたいです。

あおばりあふりーコンサート



あおばりあふりーコンサート午後の部終了後の参加者との記念写真

しましまのおんがくたい

連絡先

URL <https://shima-on.com/>
 E-mail info@shima-on.com
 Facebook <https://www.facebook.com/shimashima.ongaku/>
 X <https://twitter.com/shimashimaongak>
 Instagram https://www.instagram.com/shimashima_band/

団体紹介

しましまのおんがくたいは、音楽大学を卒業しプロとして活躍するメンバーで結成された管打楽器ユニットです。0歳からのちいさなお子さまと、その保護者のみなさまへ本格的な生演奏を届けるべく、ワークショップ形式のコンサートを各地で開催しています。

会期 2023年10月13日～2023年11月26日

会場 【青葉区】神奈川県立あおば支援学校、横浜市青葉区民文化センターフィリアホール

参加アーティスト 木村有沙、倉内理恵、高橋朋子、富田真以子、永井嗣人、山本西

来場者数	398人
主催	しましまのおんがくたい
協力	神奈川県立あおば支援学校、横浜市青葉区民文化センターフィリアホール
助成	令和5年度文化芸術による子供育成推進事業(芸術家の派遣事業)
実施イベント	10月13日、10月17日、10月20日:しましまのおんがくたい、11月26日:あおばりあふりーコンサート

子どもたちに バリアフリーで 楽しめる音楽を



あおばりあふりーコンサートの様子



あおばりあふりーコンサート作品展示の様子



あおば支援学校でのコンサート終了後

今年で3年目となる神奈川県立あおば支援学校での活動では「しましまのおんがくたいwithあおば支援学校2023」として児童、保護者、ボランティアのみなさんを対象にした参加型コンサートを行いました。しましまのおんがくたいが生演奏を披露するだけでなく、児童も一緒に楽器を演奏しながら参加しました。生演奏を五感で楽しみ、みんなで一緒に音を出すことで喜びを分かち合いました。例年は一部の児童を対象にしていたのですが、今年は全学年に音楽を届けることができました。

これまではあおば支援学校の在校生を対象にした活動を行っていましたが、今回は卒業生や地域の人を対象とした「あおばりあふりーコンサート」を開催することができました。青葉区民文化センター・フィリアホールのリハーサル室を活用し、障害の有無にかかわらず誰でも楽しめるコンサートを実現しました。サポートが必要な人も安心して参加できるような環境づくりを重視し、休憩所やベビーカー置き場を用意するなどの配慮を行いました。当日は障害のある高校生もスタッフとして参加し、イベントをサポートするという展開も生まれました。また、あおば支援学校の児童のつくった作品の展示コーナーやしましまのおんがくたいの活動紹介も設置し、地域の人たちに学校や障害のある人たちへの理解を深めるための取り組みを行いました。

あおば支援学校との連携は学校の協力により、一層深まっています。先生たちからは児童がふだんは見せない表情でパワフルに動く様子に驚いたという声も寄せられました。地域に向けた取り組みでは、会場の環境整備や広報に課題が残ります。障害への理解を深めるとともに、情報をどのように届けるのかを再検討したいと思っています。学校を卒業した後に、地域で音楽にふれられる場所が限られていることもあり、来場者からは再演を願う声があります。

学校と地域、そして障害の有無がフラットになる関係性を目指し、音楽を通じたアプローチを続けます。

ジャズ喫茶ちぐさの90年



ジャズ喫茶ちぐさの90年(横浜中央図書館)

一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館

連絡先

URL <https://www.noge-chigusa.com/>
 E-mail jazzchigusa@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/jazzchigusa>

団体紹介

野毛にて吉田衛が1933年にちぐさを開業し2023年で90周年を迎える。現存する日本最古のジャズ喫茶。吉田衛取蔵のレコードコレクションや書籍を管理する吉田衛記念館を併設し社団法人化している。地域文化保存のためエアーマネジメント業務も担う。

会期 2023年10月10日～2023年11月19日

会場 【西区】横浜市中央図書館【中区】横浜にぎわい座のげシャーレ、野毛Hana*Hana

参加アーティスト 金本麻里、遠藤定、小川恵理紗、千葉岳洋、宮脇惇、松岡杏奈、中根佑紀、小玉勇氣、市川莉子、後藤雅洋、佐伯誠

来場者数	1,113人
主催	一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館
共催	横浜市中央図書館
実施イベント	10月10日～11月19日:ジャズ喫茶ちぐさの90年(横浜中央図書館)、11月14日:ジャズ喫茶ちぐさの90年(横浜にぎわい座のげシャーレ)、11月16日:ジャズとジャズ喫茶と街

横浜のジャズ文化を 継承し、次世代に伝える



記念コンサート



マッチ企画



ジャズとジャズ喫茶と街

今年はジャズ喫茶ちぐさの90周年を記念して、さまざまな事業を展開しました。

図書館1Fにある展示コーナーでは、ジャズ喫茶ちぐさの90年を振り返る展示を実施しました。創業者吉田衛のジャズ事業に関する履歴や戦前～横浜大空襲後の店舗復活の歴史を、資料や音源とともに伝える内容になりました。また3/4スケールのちぐさを復元し、米軍が残したSP盤を蓄音機から鳴らしました。また、吉田と交友のあった国内外のジャズミュージシャンや、新しい才能を発掘するために制定したちぐさ賞受賞者の紹介、現在建て替え中の新ちぐさの設計に関わる建築家・山本理顕氏の新ちぐさ模型、書籍も設置し、時系列に90年を振り返るイベントとなりました。またちぐさがコレクションしている全国のジャズ喫茶のマッチも公開しました。会場には当時のちぐさを知る人も多く足を運び懐かしむ姿もみられました。またちぐさを知らなかった図書館の利用者にその歴史を通してジャズ文化にふれてもらう機会にもなりました。

ジャズ喫茶ちぐさ90周年記念コンサートでは歴代のちぐさ賞受賞者9名が勢揃いし、圧巻のセッションライブを披露しました。また老舗ジャズ喫茶「四谷いーぐる」店主でジャズ評論家の後藤雅洋氏と文筆家の佐伯誠氏を招いて「ジャズとジャズ喫茶と街」と題したトークイベントも開催し、ジャズ喫茶が流行した60～70年代の日本社会について当時の時代背景とともにふりかえりました。

今年度はジャズ喫茶ちぐさ90周年と新店舗のオープンに向けた特別な年になりました。今後は新店舗の活用方法を検討していくほか、社会課題に取り組む継続的な活動を行い、ふだんはジャズを聞かない人にもアプローチしたいと考えています。現存する日本最古のジャズ喫茶として、横浜のジャズ文化を継承し、これからの若い世代に伝えていきたいです。海外からの観光客もターゲットに見据えながら、野毛の文化を多くの人に伝える活動を続けます。

アートプロジェクトstudio oowa



まねるおねえさん#1、マネるWS
photo: Hajime Kato

Studio oowa実行委員会

連絡先

TEL 080-3454-2269 (加藤)
E-mail oowa.studio@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/people/Studio-oowa/100089802115325/>
Instagram https://www.instagram.com/studio_oowa/

団体紹介

“oowa”とは、発語が苦手な一人のダウン症の男の子が使うオリジナルの言葉に由来します。社会がまだことばと認識できていない行動やアクションを探し、尊重・共有することでオリジナルのコミュニケーションを模索する場づくりを行う団体です。

会期 2023年7月31日～2024年1月26日

会場 【西区】Studio oowa

参加アーティスト 身体企画ユニット ヨハク、中屋敷南、osono、仁科幸、はらだまほ、ささきみき、杉本音音、チヨダアヤカ、安食真（スタジオニプロロール）、竹中里来、岩澤哲野、川島彩水、北野ちゆき

来場者数	1,306人
主催	Studio oowa実行委員会
協力	藤瀬デパートメント、野毛山kiez、横浜国立大学付属特別支援学校
実施イベント	7月31日、8月26日、10月1日：まねるおねえさん、8月16日、10月15日、12月3日：oowa lab、11月18日、12月9日、12月10日：YUKAI YOKAI YAKAI ~愉快な妖怪になって夜会の写真を撮ろう!~、12月29日：喫茶スクエア×Studio oowa、1月14日～1月26日：ひとり教材展 at oowa

動いて描いて 全身をつかって コミュニケーション



YUKAI YOKAI YAKAI
ファッションシューティング
photo: Hajime Kato



喫茶スクエア×Studio oowa
WSの様子
photo: Hajime Kato



ひとり教材展@oowa
特別支援教材を実際につかっている様子
photo: Hajime Kato

活動の初年度となった今年度は言葉だけでなく、空間をともにすることを通したコミュニケーションのあり方を探るアートプロジェクトとして、5つのテーマ「まねる」「まとう」「もてなす」「まねる」「知る」「ふれる」を軸に企画を立てました。

「まねる」では主に特別支援学校に通う子どもたちを対象として、身体企画ユニット ヨハクを中心としたダンサーとともに、言葉は最低限にして、身体の動きだけで「まねる-まねされる」という、新たなコミュニケーションの模索を行いました。

「まとう」では、デザイナーが妖怪をテーマに制作した衣装を子どもたちがまとい、ポートレートを撮影しました。ふだんあまり着ることのない「見せる-見られる」ための衣装をまとうて写真撮影を行うことで、新たな表現を模索しました。また翌月には撮影した写真にイラストを描いたりコラージュしたりするワークショップと展示を行いました。

「もてなす」では、ダウン症の親の会と連携して演出家の岩澤哲野さんが主催する喫茶スクエアとともに活動しました。未就学のダウン症の子どもたちを対象としてコースターづくりやコーヒーのドリップの練習を行いました。ふだんは支援されることの多いダウン症の子どもたちが、保護者や地域の方々をもてなしました。いわゆる「おもてなし」ではなくても、参加者の行動を全てもてなしとして捉えることで、子どもたちを肯定する視点が生まれたと考えています。

「知る」では、特別支援学校教諭の北野ちゆきさんが考案した視覚や触覚に訴える教材について、制作のきっかけになった児童との関わりを描いたエッセイと撮り下ろしの写真をオンラインで紹介しました。

「ふれる」では「oowa lab」と題して、オープンスタジオを行い、画材や道具に自由にふれる機会をつくりました。

今年度は他団体との関わりも増えたため、これからは地域外の活動も視野に入れた展開を検討しています。

性暴力サバイバービジュアルボイス



ワークショップの様子

STAND Still

連絡先

URL <https://standstill.jimdofree.com/>
 Facebook <https://www.facebook.com/standstilljapan>

団体紹介

参加する性暴力サバイバーが主体的にプロジェクトに関わることを目的とし、写真を通して自分の思いと向き合い自己肯定感を高める。写真展を行うことで社会への性暴力サバイバーへの理解を深め、問題解決の糸口になる活動を行う。

会期 2023年7月15日～2024年1月27日

会場 【中区】横浜市青少年育成センター、エールアンジュ【青葉区】男女共同参画センター横浜北【南区】男女共同参画センター横浜南【鶴見区】済生会横浜市東部病院
(展示・ギャラリートーク 第1回Stillラウンジ)

参加アーティスト 性暴力サバイバー写真家(公募)、大藪順子(フォトジャーナリスト)

来場者数	729人
主催	STAND Still
協力	Picture This Japan
実施イベント	7月から計6回：ワークショップ、9月2日～9月16日、10月1日～10月31日、11月26日～12月9日：写真展、12月2日：ギャラリートーク、1月27日：第2回ラウンジ

思いを写真にして 穏やかに語れる場所を



フォーラム南太田展示設営の様子



ギャラリートークの様子



ラウンジの様子

性暴力サバイバーが公に声を上げなくても表現できる場づくりとしてフォトワークショップを実施し、11～12月の犯罪被害者週間にあわせ、写真展を開催しました。自由にそして安全に表現する場を設けることや、ほかの参加者との交流を通じたピアサポートを大事にすることとあわせ、写真の展示を通じた啓発と社会への提言により、参加者が自らをエンパワメントすることが主眼となっています。

6回にわたったワークショップでは、12人のサバイバーが参加し、各々の思いを写真に写しました。この成果は、写真展とワークショップ参加者が作品について語るギャラリートークの場で一般に開きました。

写真展の来場者の中には、アンケート等がかたちを残すことは難しくても、関心のある方が多くいることが実感できました。ご自身のイベントの収益を寄付したいと申し出る方もいました。

ギャラリートークでは、写真の解説を自分では語らずに代読で発表することも選択できますが、ほとんどのワークショップ参加者は自分自身で写真の話を語ることができ、それぞれが思いを語る様子を一般の来場者が温かく見守る、とても穏やかな会となりました。

このほか、もっと自由に話がしたい方に向けてラウンジを開催しました。ゲストの音楽に癒されながら作者と参加者とも交流を図りながら歓談する時間がつけられました。

また当初は、簡易な写真冊子をつくる予定でしたが、計画が進むにつれ盛り込むことが増え、最終的には写真集の書籍ができあがりました。男女共同参画センターの図書館や文化施設に配架し、展示以外でプロジェクトへの理解を深める機会をつくりました。

体調や精神面、生活の中でも生きづらさを感じている人も多く、運営等に携われる人材が少ないことは引き続きの課題です。いかに運営サイドが疲弊せずプロジェクトを続けることができるのかを検討することも急務で、さらに検討を続けていきます。

のんびりアートデイ



のんびりアートデイ・屋外ワークショップ
photo: 後藤京子

NPO法人スペースナナ

連絡先

URL <http://spacenana.com>
 TEL 045-482-6717
 FAX 045-482-6712
 E-mail art.day.nana@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/spacenana.azamino>
 Instagram https://www.instagram.com/art_day77/

団体紹介

青葉区あざみ野にて、ギャラリーやショップを併設したコミュニティカフェを運営。世代や性別、障害の有無、国籍などにかかわらず、誰もが安心して交流できるサロンやイベント、学習会を開催している。

会期 2023年7月4日～2024年1月28日

会場 【青葉区】NPO法人スペースナナ、藤が丘駅前公園【緑区】にはる里山交流センター

参加アーティスト 中畝治子、中畝常雄、本間久仁子、三田政広、井上高、中尾聡志

来場者数	251人
主催	NPO法人スペースナナ
共催	ナナ食堂実行委員会
協力	NPO法人えだ福祉ホーム、NPO法人森ノオト
実施イベント	7月4日～1月23日:のんびりアートデイ、11月19日:のんびりアートデイin新治里山、11月23日:あおばを食べる収穫祭、1月14日～1月28日:のんびりアートデイ作品展

気軽に集う まちの居場所を アートから



のんびりアートデイ、ワークショップ



のんびりアートデイ・作品展



のんびりアートデイ・ワークショップ

誰もが気軽に立ち寄れるアートワークショップとアートスペースを拠点である「スペースナナ」にて開きました。今年度は日曜日に加え火曜日も定期開催としました。平日は、乳幼児の親子や不登校児のいる家庭の参加が中心ですが、認知症の当事者やケアラーが参加することもあり、平日ならではの多世代交流が生まれ、孤立しがちな世帯が地域とつながる機会にもなっています。ワークショップではさまざまな素材やテーマで作品をつくり、幅広い年代の参加者が楽しめる内容となりました。近隣の福祉作業所の方を講師に招いたり、参加者に講師をやってもらうなど、ワークショップの内容も柔軟に変化させ、オリジナリティあふれるものとなってきています。また「ナナ食堂実行委員会」と共催して、全回でランチの提供も行いました。

拠点以外での展開もありました。にはる里山交流センターでは屋外ワークショップを行い、ふだんはおでかけが難しい子どもたちが安心して外で遊ぶ機会にもなりました。また「あおばを食べる収穫祭」という地域のイベントに出店し、のんびりアート体験会としてワークショップやカレンダーの販売等を行うことで活動の周知につなげました。

1月にはアートワークショップで参加者がつくった作品やアートデイの風景の展示をスペースナナで行い、これまでを振り返る時間を持つことができました。

アートデイの参加者だった人がスタッフや講師になるという展開も生まれ、今後が期待されています。また、参加者がアートデイ以外の場所で自主的に活動を始めたりと、この事業の地域での波及効果を実感しています。

子どもも大人も言葉にできない思いに気づいたり、積み重なった困りごとを解消することができるようになったりと、アート活動を通じた良い変化を感じています。これからもいわゆる支援ではないかたちで、さまざまな方にアートでアプローチする方法を考えながら事業を展開していきます。

SAKAE Wakamono Creation



音楽劇「ブシュケー 一俺の生まれる理由ー」

ティーンズクリエイション 組織委員会

連絡先

URL <http://www.sakae-art.jp>
 TEL・FAX 045-898-1400 (フレンズ☆SAKAE)
 E-mail sakaeteens@gmail.com
 Facebook www.facebook.com/sakaedetsunagaruart

団体紹介

2018年に志を同じくする地域の団体・施設・個人がティーンズクリエイション組織委員会を結成、若者と大人が協働して補い合う運営体制を構築してきた。今できることは何かを考えチャレンジし、試行錯誤しながら多世代の来場者に響く試みを行っている。

会期 2023年7月2日～2023年12月17日

会場 【栄区】栄区社会福祉協議会、栄公会堂、SAKAESTA、栄区民文化センターリス、栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」、あーすぶらざ(神奈川県立地球市民かながわプラザ)【金沢区】横浜市野島青少年研修センター

参加アーティスト 武藤寛、山崎美奈子、山崎社中(岡部華弥、岡部弦、平澤彩、川野稜太、山崎日陽)、キグレアイミ、浅葉弾、深沢想太、深沢大地、佐藤良仁、竹本真紀、Mazken、齋藤昌子

来場者数	2,626人
主催	ティーンズクリエイション組織委員会
共催	さかえつながるアート、栄区青少年の地域活動拠点「フレンズ☆SAKAE」、公益社団法人かながわデザイン機構、横浜市立桂台中学校地域交流室オレンジの会、横浜市栄区民文化センター リリス(指定管理者:神奈川共立・JSS共同事業体)、MT+Laboratory
後援	横浜市栄区、栄区子ども会連絡協議会、SAKAESTA、横浜市栄公会堂、横浜市栄区社会福祉協議会、J・COM
協賛	海鮮茶屋せんざん本店、焼肉屋熱烈カルビ、石井通園株式会社、株式会社ダイショー、株式会社プラスト、HIDEKI KOBAYASHI、株式会社千歳観光(グランドホール港南店)、池川明(池川クリニック院長)
協力	横浜市栄区中学校長会、横浜市立本郷特別支援学校、神奈川県立地球市民かながわプラザ「あーすぶらざ」(指定管理者:公益社団法人青年海外協力協会)、くらしまづくりネットワーク横浜、株式会社タウンニュース社 港南区・栄区編集室
実施イベント	7月2日～12月8日:音楽劇「ブシュケー」公演稽古、10月8日、10月22日、11月25日、12月8日:舞台装飾・衣装づくり等ワークショップ、10月28日、10月29日、11月25日:「つながる絵」ワークショップ、12月9日:音楽劇「ブシュケー セレネ」公演、12月10日:音楽劇「ブシュケー ヘリオス」公演、12月13日～12月17日:ティーンズクリエイション展2023、12月17日:ダンスパフォーマンス発表、音楽劇「ブシュケー」より劇中歌ライブ

演劇を通して 若者たちの 生きるチカラを



作品展会場



ダンスパフォーマンス発表



音楽劇「ブシュケー」より劇中歌ライブ

今年度は新しい展開として演劇創作を核に構成し、運営体制も進化させました。これまでは作品展示会場の一角で発表していた若者自身の発案・脚本によるショート劇を、今年度は、栄公会堂の講堂で音楽劇「ブシュケー」公演としてスケールアップ。プロのアーティストからの演技指導や照明、音響といった専門性の高いスタッフと関わりながら活動をしてきました。まずチラシやSNSで中学生以上を対象に募集したところ、31名の希望者が集まりました。しかしキャスト希望者が予想以上に多かったため、主要キャスト以外は完全ダブルキャスト、しかも一人二役を演じることとなり、演劇経験のない参加者でも参加できるよう丁寧な稽古プランを組み進めました。またスタッフとして参加した若者も、衣装制作に布を裁断するところから関わったり、舞台関係者の指導のもと大道具類の設置、舞台設営等を体験したり、本格的な技術にふれることができました。さまざまな体験を通して仲間と一緒に活動する喜びを感じることができたと考えています。公演当日は満席となり観客からの感想も好評でした。本番終了後も参加者同士の関係が継続し、この事業による青少年の育成に展望が見えてきました。

「ティーンズクリエイション展」は継続開催し、演劇の内容とリンクさせ「生きる」「命」をテーマに栄区内外から集まった297点の作品が展示されました。会場では1本の線でつなぐイラストを描くワークショップやダンスパフォーマンスの発表、演劇の劇中歌ライブも行いました。作品展には通算7回目の出展者もあり、発表の場として定着してきたと感じています。

会場である栄区民文化センター リリスや栄公会堂、練習場所として利用したSAKAESTA、栄区社会福祉協議会、若者たちの居場所であるフレンズ☆SAKAE(栄区青少年の地域活動拠点)が若者たちをサポートする体制を組むことができた点も大きな成果です。今後も地域で連携しながら若者たちとの関わりを深めていきたいです。

どこコレ? in たまプラーザ



歩くどこコレ?風景

どこコレ? inたまプラーザ運営事務局

連絡先

TEL 090-7445-3040
 FAX 045-901-1014
 E-mail dokokore2023@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/dokokore.tamaplaza>

団体紹介

住民主導かつ年代・性別を問わないオープン参加型のイベントを行うことで地域に対する愛着や世代を超えた住民同士のつながりの創出を図り、より暮らしやすい魅力的な街をめざして継続的に活動を展開しているさまざまな地域活動団体がつながりました。

会期 2023年10月20日～2024年1月20日

会場 【青葉区】ドレッセWISEたまプラーザco-niwa、たまプラーザ地域ケアプラザ、美しが丘四郵便局、たまプラーザ駅周辺

参加アーティスト キリバリデザイン(山下けんぢ+山下あさみ)、増田裕一郎

来場者数	515人
主催	どこコレ? in たまプラーザ運営事務局
共催	一般社団法人ドレッセWISEたまプラーザエリアマネジメント
協力	たまプラーザ地域ケアプラザ、美しが丘連合自治会、美しが丘商店街、美しが丘四郵便局、100段階プロジェクト、たまプラむすびの会、合同会社たまプラコネク、株式会社ロコち、プロボノ集団スパイスアップ、せんだいメディアテーク、田園都市建築家の会、NPO法人20世紀アーカイブ仙台
支援	東急みどリンクアクション
実施イベント	10月20日～10月24日:第2回どこコレ? in たまプラーザ(ドレッセWISE たまプラーザ co-niwa)、10月25日～10月31日:第2回どこコレ? in たまプラーザ(たまプラーザ地域ケアプラザ)、11月1日～11月17日:第2回どこコレ? in たまプラーザ(美しが丘四郵便局)、11月12日:第2回歩くどこコレ?まち歩きツアー(たまプラーザ駅周辺)、11月19日～11月25日:第2回どこコレ? in たまプラーザ(たまプラーザ地域ケアプラザ)、月3～4回/不定期:たまプラーザの風景塗り絵ワークショップ

昔の写真の場所を特定 新旧対比写真撮影ツアーも



配布フライヤー



展示風景 co-niwa



塗り絵ワークショップ

「どこコレ」は、昔に撮影されたまちの写真で、具体的な場所や時期が分からないものを展示し、参加者たちが経験や知識などをもとに撮影場所を特定するイベントです。2013年に仙台市で初開催され全国に拡大しているこの企画を、たまプラーザで開催しました。

この企画では、住民から提供された古い写真を地域のコミュニティスペース、ケアプラザ、郵便局で展示し、記憶や推理をたよりに、掲示した昔の街並みの写真の場所や時代を、付箋紙に書き込んでもらいました。フライヤーの全戸配布が功を奏し、赤ちゃん連れから高齢の夫婦、美しが丘小の児童、國學院大學観光まちづくり学部ゼミ生の参加もありました。地域に対する愛着の醸成や、世代を超えた住民同士のつながりの創出を目指したこの企画は、大勢の参加者に恵まれました。

この地域の住民は、開発以前から居住している人を除くと、大部分が1970年代以降に流入してきた東京の都心部で働く人たちでした。一般にカメラが普及し、移り住んだまちでマイホームや家族写真をたくさん撮った世代もすでに80代～90代になり、昔の写真を保存している人が年々減少していたり、保存していても高齢のため探し出すことが困難だという課題があります。今回の企画で触発され、自分の写真やビデオを持参してくれる人も増えています。昔の話を熱心に何時間もしてくれる人もおり、みんなの共通の話題にもなるほか、ケアの視点でも好評でした。

まち歩きツアー「歩くどこコレ?」では特定した地点の現在の写真を撮り、昔の写真と今の写真、地図を並べた冊子にして発行しました。このほか、地域のコミュニティスペースでは「まちの活動紹介プロジェクト」の中で、たまプラーザの風景の塗り絵ワークショップを行うなど活動は広がっています。

今後も活動を継続することで、まちの記憶のアーカイブが地域の恒例行事として根付いていくことを望んでいます。

虹色畑クラブ 畑でアートプログラム



麦畑で大地を感じるワークショップ

虹色畑クラブ

連絡先

URL <https://ameblo.jp/niji-iro-hatakeclub/>
 E-mail hatake.club2016@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/nijiirohatake>
 X <https://twitter.com/nijiirohatake>
 Instagram <https://www.instagram.com/hatake.club/>

団体紹介

さまざまな生きづらさを抱えた人たちがその家族、福祉従事者等のケアラー、地域の人たちがともに港北区高田町の藤田農園に集い、毎週木曜と月2回の日曜日に種まきや草取り、野菜の収穫等の援農を行う、リフレッシュと交流の場。麦踏みや料理イベント等も実施。

会期 2023年7月25日～2024年1月14日

会場 【中区】居場所「カドベヤで過ごす火曜日」【港北区】横浜・藤田農園

参加アーティスト まじあと&こーた、zou、木槍朱実、ながい順子、田巻希、吉原智恵子

来場者数	148人
主催	虹色畑クラブ
共催	居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会
後援	横浜・藤田農園
協力	公益財団法人横浜市緑の協会
実施イベント	7月25日、8月15日、9月5日、10月17日、11月14日、12月5日、1月9日：横浜野菜で食卓を彩ろう、9月5日：野菜ピックを作ろう、10月24日：ハーブの素焼き植木鉢に絵付けをしよう、11月26日：虹色畑でガーデニング♪、12月3日：焼き芋祭り&ギターで歌おう！、12月5日：サツマイモのツルでクリスマスリース作り、1月14日：麦踏みワークショップ

畑で身体を アートで心を 動かして元気に



サツマイモのツルでXmasリースづくり



青空の下で、ギター演奏



素焼き鉢への絵付け

虹色畑クラブではこれまで生きづらさを抱えるあらゆる人とともに横浜市の藤田農園で援農を行い、その作業を通して、元気を取り戻す活動を行ってまいりました。今年度はアートの観点を盛り込み、自己表現や、他者とともに創作をする場として発展させました。

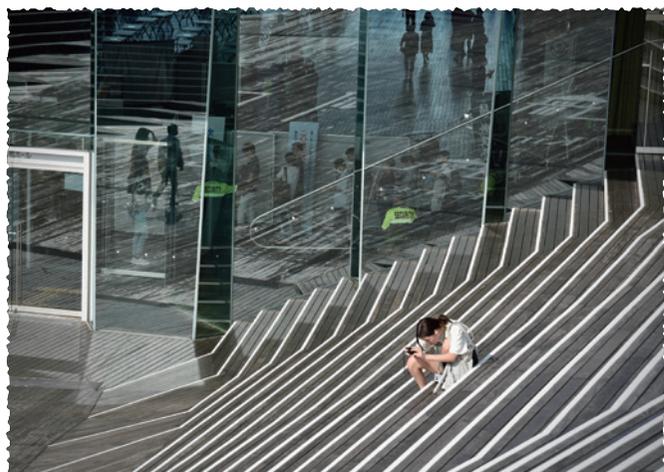
「焼き芋祭り&ギターで歌おう!」では畑にテントを張って会場に仕立てました。畑で育てたサツマイモを焼きながら、ギターの演奏を聞きました。ギタリストはふだん虹色畑クラブに通って作業を行っている引きこもりの青年でした。コンサート会場になった畑で、参加者の新しい姿が見えてきました。

「麦踏みワークショップ」では、これまでは作業として行っていた麦踏みを、ダンサーとともにダンスに見立てて踊りました。麦畑の上に寝そべて広い大地を感じたり、太陽の光を身体に当てたりしながら、身体感覚に意識を向ける時間となりました。

ほかにも花壇をデザインして花を植えることで畑を彩ったり、さつまいものツルを活用してクリスマスリースをつくるなど畑の作物を生かしたアート活動も行いました。

「横浜野菜で食卓を彩ろう」は石川町にある居場所「カドベヤ」で毎月行いました。「カドベヤ」は簡易宿泊所の集中する寿町エリアの近くで毎週火曜日にその場に集まった人でアートワークショップと食事をともにする場所です。虹色畑クラブが企画したワークショップでは畑に刺す野菜の名前のピックをつくったり、素焼きの植木鉢にカラフルな絵の具で模様をつけるなどを行いました。その後の食事の時間には虹色畑で採れた野菜を使用してピザや野菜天ぷら、里芋コロッケ、お雑煮等を、ふだんからカドベヤに通う引きこもりの若者たちがつくり、みんなで食べました。カドベヤとの協働により参加者の幅も広がり多くの対話が生まれました。カドベヤを運営する「居場所『カドベヤで過ごす火曜日』運営委員会」と虹色畑クラブでNPO法人を設立する展開も生まれ、今後の可能性が広がっています。

横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト



ワークショップ中の撮影会の様子
Photo: 大藪順子

Picture This Japan

連絡先

URL www.picturethisjapan.com
 E-mail ptj2yokohama@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/picturethisjapan>
 Instagram https://www.instagram.com/picturethis_yokohama/?ref=badge

団体紹介

2016年に始めた横浜インターナショナルユースフォトプロジェクトの継続のために結成された団体。フォトジャーナリストの大藪順子を軸に、地元の写真家や写真好きが集まり若者の写真表現をサポートする。社会的弱者やマイノリティーと言われる人たちにカメラを持たせ、彼らが映すことで見える世界を可視化するためのプロジェクトや写真展の企画・運営を行う。

会期 2023年7月2日～2024年1月29日

会場 【南区】みなみ多文化共生ラウンジ【中区】なかに区民活動センター、横浜市青少年育成センター、象の鼻テラス【鶴見区】済生会横浜東部病院【栄区】あーすぶらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）

参加アーティスト 大藪順子、Habeeba Siddik、Patck McNeal、Dennis Yang、Ellica McNeal、深谷有基、Logan Chen、鄭トウリ、李家鈞、山本咲希、須藤サーシャ、茶華間ゆな、鈴木映珠、江本恵、Clair Heidi Yeo、慎麻里、高橋孝平、千葉里葉、菅野陽太

来場者数	9,647人
主催	Picture This Japan
共催	あーすぶらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）
協賛	関内ホール
協力	象の鼻テラス、あーすぶらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）、みなみ多文化共生ラウンジ、なかに区民活動センター、横浜市青少年育成センター
助成	東急子ども応援プログラム
実施イベント	7月2日～7月30日、7月31日～8月27日、9月1日～9月29日：ミニ展示会、8月27日、9月10日、9月24日、10月8日、10月22日、11月12日、11月26日、12月10日：中学生フォトワークショップ、1月12日：象の鼻テラス展覧会準備、1月13日～1月21日：2023年度作品展覧会①、象の鼻テラス展覧会オープニングイベント、1月22日～1月31日：2023年度作品展覧会②

外国につながる ではくれない 若者が撮る横浜



ワークショップの様子
Photo: Dennis Yang



象の鼻テラスでのオープニングイベント
Photo: Ellica McNeal



2022年度作品展示設営の様子、済生会横浜東部病院
Photo: 大藪順子

今年もさまざまな国にルーツのある中高生が集まりフォトワークショップを開催しました。今回は8ヶ国につながる中学1年生～高校3年生までの13名が参加し、8月から12月まで8回のワークショップを行いました。参加者は毎回投げかけられるテーマを自分なりに考え、写真を撮影します。このワークショップでは上手に撮るのではなく、自分にしか撮れないものは何かを考えることが重視され、その過程を通して自身のアイデンティティと向き合いました。

ワークショップ開始前には外国につながる中高生の視点を紹介すること、ワークショップ参加者の募集を兼ねて、みなみ多文化共生ラウンジ、なかに区民活動センター、済生会横浜東部病院にて前年度作品のミニ展示を開催しました。そのことで学習支援や医療の現場とのつながりが深まりました。また今年度は関内ホールの協力もあって広報の範囲が広がり、開始直後に20人以上から問い合わせがありました。

ワークショップの最終発表として、象の鼻テラスとあーすぶらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）で作品展を行いました。ワークショップで撮影した写真から1人2作品を厳選し、自分でタイトルをつけて展示を行います。タイトルは撮影者のつながる国の言葉を含む多言語で表記されました。展示初日に象の鼻テラスで行ったオープニングイベントのトークコーナーで参加者は「新しい友だちができてよかった」「この社会で生きづらさを感じているのは自分だけではないのがよかった」「多様な人がいるので居心地がよかった」等と語りました。

また昨年度に続きワークショップを支えるボランティアにこのプロジェクトの卒業生が関わったことは大きな成果だと感じています。今後はオンラインギャラリーの充実も視野に入れて、プロジェクトの卒業生を中心とした運営体制を組むなど、持続可能な方針を探りたいと思います。

未来に繋ごう、みんなの!!横浜の!!歴史・文化・芸術!! ～巻いてあるもの!?!～



みんなで絵具づくり

特定非営利活動法人 美術保存修復センター横浜

連絡先

URL <https://www.npo-acrc.org>
TEL・FAX 045-489-4987
E-mail yokohama@npo-acrc.org

団体紹介

2011年、美術品の保存修復活動を広く行うため、NPO法人を設立しました。この団体は、美術品の保存修復事業ならびに、一般の人々および美術品を扱う関係者に対して、保存修復の普及と啓発を活動の柱として、学術、文化、芸術の振興に寄与します。

会期 2023年10月14日～2023年10月15日

会場 【西区】CASACO

参加アーティスト theater045syndicate、nu_i_to、経新堂稲崎、中園舞

来場者数	50人
主催	特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜
協力	theater045syndicate、nu_i_to、経新堂稲崎、Connection of the children
実施イベント	10月14日～10月15日：未来に繋ごう、みんなの!!歴史・文化・芸術!! ～巻いてあるもの!?!～

日本美術の歴史を 楽しく紐解く 演劇とワークショップ



横浜の歴史



掛軸ができた!



蚕に感謝

日本の美術の歴史を子どもから大人までわかりやすく伝えるプロジェクトとして、演劇とワークショップを開催しました。

イベントは日ノ出町にあるCASACOで行いました。多様な人に日本の美術について伝えたいという思いから、多世代・多国籍の人が集うシェア住居とイベントスペースを備えたこの場所を選びました。

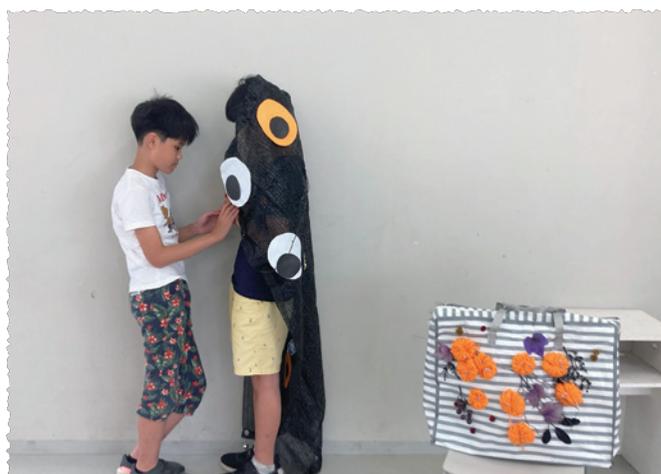
今回のテーマは「掛け軸」です。近年ではあまり馴染みのないものですが、持ち運びができて気軽に楽しめるものとして身近に感じてもらうことを目指しました。演劇のストーリーは横浜の歴史には詳しくない、たまたま通りがかった営業マンが実際の会場に訪れることから始まり、CASACOのスタッフと話す中で、ここが昔は海だったということや吉田新田の話などを聞きます。スタッフに勧められて筆で絵を描くことで、上手に描くのではなく自由に描くことの楽しさに気がつきます。そんな演劇の内容を引き継いで、終演後には日本画のワークショップが開かれました。

ワークショップでは既製品の絵具を使うのではなく、顔料と膠を合わせる^{にかわ}ところから行います。そのため人それぞれに違う色合いの絵具ができました。筆で描いて完成した絵は、掛け軸に仕上がります。参加者からは「自分で描いたのに掛け軸にするととてもいい絵に見えて嬉しい」「これを機に絵を飾りたい」などの感想が寄せられました。

会場では蚕の糸繰りワークショップも開催しました。絹の原料となる蚕のつくった繭玉を茹でて、そこから糸を引き出していく作業を体験してもらいました。

絵具も絹も実際にやってみることで、美術品の成り立ちがわかるとともに、その歴史に触れることにつながります。これからも今あるものが過去とつながっていることを受け継ぐ活動を続けたいです。今後は地域との連携を深めるために、ミニ展示やワークショップ、今回制作した演劇の再演などを市内各所で展開していきたいと考えています。

視覚障害児と一緒に作り出す インビジブルアートの開催



全盲の子ども同士で作品を触り合いっこしながら確認しているところ

ひよこの会

連絡先

URL <https://hiyokonokai-kanagawa.jimdofree.com/>
E-mail hiyokonokai.kanagawa@gmail.com
Facebook <https://www.facebook.com/hiyoko.no.kai>

団体紹介

2013年度より視覚障害児とその家族を支える会として神奈川を中心に活動してきております。0歳のお子さんから、先天全盲、弱視、重複障害のお子さんが会員です。活動内容としては視覚障害児の子育て勉強会、交流会、さまざまなアートワークショップやバラスーツの体験会。

会期 2023年7月23日～2023年11月19日

会場 【南区】黄金町エリアマネージメントセンターDsite、黄金町アートブックバザール、Chair café【中区】竹之丸地区センター

参加アーティスト さかもとゆり、打楽器コンサートグループ・あしあと

来場者数	242人
主催	ひよこの会
共催	LITTLE ARTISTS LEAGUE
協力	LITTLE ARTISTS LEAGUE、打楽器コンサートグループ・あしあと、黄金町アートバザール、さかもとゆり
実施イベント	7月23日：ひよこの会陶芸教室、9月3日：インビジブルアート作品作成、10月26日～11月3日：ひよこの会ハロウィンfrom HOME、10月28日：インビジブルワークショップ 見えないおぼけを見ずにツクル／おぼけから音を出す、11月19日：あしあとコンサート

先天盲児がつくるおぼけ 地域とのつながりをアートで



陶芸教室、全盲の女の子が
道具を先生に言葉の介助を受けながら選んでいる様子



ひよこの会ハロウィンfrom HOME展示の様子



コンサート終了後、楽器を直接触れて体験

団体は、2013年度より視覚障害児とその家族を支える会として活動してきました。今回の事業では、多様性が尊重される社会の中で、障害がある人も自由に社会参加でき、アートを楽しみ、共有ができる内容にしました。

陶芸教室では、視覚を使わず触覚で表現できる粘土を一つの作品にすることで、子どもたちが主体的に主体性を持って作品制作ができました。大人たちが正解を決めるのではなく子どもたちが表現したいことを理解して、そのためのアドバイスをするかたちで寄り添い、制作ができました。自主的に表現ができる経験は、自己表現が不得意な障害児にとって自信になりました。

インビジブルアートの作品制作「見えないおぼけを見ずにツクル／おぼけから音を出す」では、触り心地の異なるさまざまな素材を使って、目が見えにくい子どもたちがつくった「見えないおぼけ」をメインに作成、展示しました。ワークショップでは目が見える人にも視覚情報を遮ったうえでおぼけをつくってもらい、もう一人が素材や制作に対してアドバイスを行うという方法を取りました。その作品を視覚で確認後、色を音に変えるシステム(Color to Sound System)を使い、自分がつくったおぼけから音を出し、聴覚で鑑賞してもらいました。展示は開催期間が重なっていた黄金町バザールとも連携ができました。

また、打楽器の体験型コンサートも開催しました。レインスティックを手づくりしたり、トーンチャイムをみんなで合奏することもできました。

今後は作品キャプションを工夫するなど、作品理解につながる展示方法も工夫して考えています。

先天盲は障害の中でも人数が少なく、出産時からよりどころが少なく、支援につながりにくい傾向があります。アート活動という領域から、地域とのつながりを得ていきたいと考えています。

みんなでワークショップ



第8期演劇ワークショップ6回目
リハーサルの舞台

NPO法人ぶかぶか

連絡先

URL <https://www.pukapuka.or.jp>
 TEL、FAX 045-453-8511
 E-mail info@pukapuka.or.jp
 Facebook <https://www.facebook.com/npopukapuka>

団体紹介

就労支援B型の福祉事業所を運営。パン屋、お惣菜屋、食堂、アートスタジオを運営。知的障害のある人たちが43名働いている。

会期 2023年8月26日～2024年1月28日

会場 【緑区】横浜市緑区民文化センター みどりアートパーク

参加アーティスト 花崎攝、成沢富雄、倉田春香、吉村安見子、小針翼、高野菜

来場者数	512人
主催	NPO法人ぶかぶか
共催	横浜市緑区民文化センター みどりアートパーク
協力	演劇デザインギルド、オペラシアターこんやく座
助成	一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金
実施イベント	8月26日：第8期演劇ワークショップ1回目、9月16日：第8期演劇ワークショップ2回目、10月14日：第8期演劇ワークショップ3回目、11月25日：第8期演劇ワークショップ4回目、1月20日：第8期演劇ワークショップ5回目、1月27日：第8期演劇ワークショップ6回目、1月26日：表現の市場

演劇で ダイレクトに伝わる その人らしさ



第8回表現の市場
本番舞台



第8期演劇ワークショップ3回目
巨大なトウモロコシを運ぶ



第8期演劇ワークショップ2回目
ねずみの耳をつくる

ぶかぶかは「障害のある人たちとはいっしょに生きていった方がいい」というメッセージを多くの人と共有するため演劇のワークショップと公演を続けています。今回は絵本『フレデリック』をベースに新しい物語を立ち上げました。演劇ワークショップには障害福祉事業所ぶかぶかで働くメンバー約20名と地域の人10名が参加し、一緒に身体を動かしたり、ゲームをする中で飛び出した参加者のアイデアやエピソードが物語に組み込まれ、それぞれの個性が伝わる演劇が創作されました。また公演の出演だけでなく、障害のある人のつくった作品が舞台美術として使用され、人前に出るのが苦手な人も参加することができました。

公演は団体が主催するイベント「表現の市場」にて上演されました。イベントでは「あらじん」による和太鼓や、「はっぴオールスターズ」による歌とパフォーマンス、「シーハウス工房」による紙芝居など障害のある人が中心となったさまざまな舞台芸術が発表されました。いずれの舞台も出演者の自主性が尊重され、そのいきいきとした姿に観客も大変盛り上がっていました。演劇公演では、ぶかぶかのメンバーと地域の人が支え合いながら、一度きりの生の舞台を演じ切りました。思いもよらないハプニングもありましたが、全て含めて楽しめる雰囲気生まれていました。客席は満席となり、これまで継続してきた成果を感じています。

団体としてはスタッフの育成が課題となっていました。今回は若いスタッフが活躍し、舞台の背景画や役者の衣装等のデザイン、製作を行いました。また舞台ワークショップを依頼している演劇工房デザインギルドにも若いスタッフが加わり、今後の活動に展開が見えてきました。

これからも支援する／されるではない関係性の中で生まれる表現を通して、障害のある人との新しい関係性を考えるきっかけをつくっていきたく考えています。

ほってみる



魚100匹プロジェクト

ほる実行委員会

連絡先

E-mail artlabova@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/horuhole/>

団体紹介

「日常の営為の中で出会う制度・枠組みに対して考えを巡らせ何かしらのアプローチを試みる」と「全ての人に備わっている生きるために世界を知覚していく運動＝能動性そのものに出会うこと」を目的にしたアーティスト・コレクティブです。2023年設立。

会期 2023年7月14日～2024年1月31日

会場 【中区】大岡川、横浜パラダイス会館、若葉町ウォーフ、若葉町、富士見川公園、中区周辺【西区】野毛山公園【金沢区】柴シーサイド 恵みの里【神奈川区】三ツ沢公園 青少年野外活動センター、わんこそば「たち花」

参加アーティスト 青山るりこ、小手川望、門脇篤、ArtLabOva、砂山典子、Kiryu 貴流、橋本康二、石井淳一、来島友幸、阪田弘子、服部典子、三橋順子、持田美塩ナタリー、まいこ、三宅航太郎

来場者数	2,069人
主催	ほる実行委員会
共催	ArtLabOva
実施イベント	7月14日：ゴープロを大岡川に沈めてみた、7月15日：免疫力をあげるための肉とダンスの会featuringスナッチ、7月27日：ほる遠足、7月30日：オリジナルパフェを作ろう、8月5日：あこがれのジェルネイル講座、8月13日：魚100匹プロジェクト、8月27日：手持ち花火大会、9月17日：肝試し、10月29日：ハロウィンビンゴ！、11月30日～12月3日、1月4日～1月7日：学習支援と雑談、12月3日：ほる遠足～みかん狩り、12月8日：オリジナルパンケーキをつくろう、ヤング労働者相談窓口、12月21日：クリスマスリースを作ろう、12月24日：クリスマスビンゴ+パンケーキ作り、12月27日：ほる遠足～バーベキューをしてみよう、12月28日：ほる遠足～わんこそば体験、1月5日：たこなしたこ焼き＝ラジオ焼きをつくる！、1月6日：先生方との「本当はこうしたいのに」ミーティング、書初め、1月7日：わんこそばをやってみた、初めてのお節料理、1月13日：納豆は絶対に食べて来ないでください、1月14日：特別講座「歴史から買売春を考える」～「遊行女婦」から近代公娼制へ、1月19日：特別講座「歴史から買売春を考える」～「赤線」と「売春防止法」、1月21日：チーズパーティー！、1月21日：14才でこどもを生んだ地元の先輩がみんなに語るわたしの性の話、1月26日：特別講座「歴史から買売春を考える」～「横浜の遊廓とその変遷」、ディープ横浜若葉町ツアー、1月31日：ほってみるをほってみる

つぶやきや疑問から始まる この地域に必要な学び



ほる遠足～みかん狩り



魚100匹プロジェクト



チーズパーティー

拠点である横浜パラダイス会館のある地域は、近隣の公立小・中学校の6割以上が海外につながる子どもたちです。国籍に限らず、セクシャリティや障害、病気、年齢、宗教、社会的規範の違いなど、いろいろな意味での多文化共生が微妙なバランスで「結果的に」成り立っています。複雑で多様な世界に向き合いアプローチしていくために、芸術的思考はいま学びに不可欠なことだと考え、30本の事業を行いました。

日本に生まれたものの、何十年住んでも参政権の持てない子たち。友だちと遊ぶ約束も断って、親のために通訳や翻訳をしても決してほめてもらえないヤングケアラー。まず、そんな子どもたちがつぶやいた些細な願いを拾い上げて、実現化していく事業をいくつも積み重ねました。具体的には「怖い話をしたい」という高校生の欲望をイベント化した企画や、魚とり+スイカ割+鬼ごっこ+ドロケイ+花火を行う小学6年生が企画した夢のプロジェクトなどです。

また、アーティストなどの大人たちが、このまちにいる子どもや大人たちのために立ち上げたプロジェクトも開催しました。雇用条件通知や最低賃金を学ぶ企画や、中学校の理科の先生に味噌づくりを習う企画などです。

さらに「そもそも、なんでこういう世の中なのか？」という疑問をみんなと考え、共有するプロジェクトとして、先生方（学校内ではできないけれど）本当はこうしたいのに、という思いを聞くミーティングや、歴史から買売春を考える講座を行いました。

企画全体を通して、日常とは違う視点や場を共有することによって、ふだんは横浜の中心市街地の一面に人知れず存在していた人たちが可視化され、お互いに新たな発見をすることができました。また、自分の意見が尊重されることにより、子どもたちの参加が参画になるなど、より能動的になりました。

来年度以降、資金的な問題が増すなか、どのように事業を成り立たせるのかが一番の課題です。

まちなか立寄楽団の「たちよってつくるコンサート2023」



ワークショップでは、竹の音を探求

まちなか立寄楽団

連絡先

E-mail machinaka.tachiyori@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/machinakatachiyori>

団体紹介

まちなか立寄楽団は、「気が向いた時にふらっと立ち寄れて、楽器を演奏したい人、歌いたい人、聴きたい人、誰でも自由に居られる場があったら良いよね」という想いから生まれた楽団です。横浜市寿町健康福祉交流センター多目的室を拠点として活動中です。

会期 2023年9月17日～2023年11月5日

会場 【中区】横浜市寿町健康福祉交流センター

参加アーティスト 岩崎佐和、長澤浩一、ちんどん喜助

来場者数	80人
主催	まちなか立寄楽団
後援	公益財団法人横浜市寿町健康福祉交流協会、LOCAL GOOD YOKOHAMA、ヨコハマ経済新聞
協力	横浜市ことぶき協働スペース(運営:NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ)、特定非営利活動法人横浜移動サービス協議会 就労継続支援B型 IKIKIカンパニー、一般社団法人からこそBOX
助成	公益財団法人音楽文化創造
実施イベント	9月17日、10月1日、10月15日、10月29日、11月5日:たちよってつくるコンサート2023

ふらっと参加できる 寿にある音楽の居場所



からこそBOXの移動カフェで気軽におしゃべり



コンサートの様子、マイムマイムでダンス



コンサート当日、広場で呼びかけ演奏

寿地区に住む方を中心に音楽を演奏する楽しみや、今の気持ちを気軽に表現する機会をつくるため、誰でもふらりと立ち寄って参加できるコンサートを行いました。

コンサートに向けて、事前に4回のワークショップを行いました。今年は自然の音に耳を澄ますことをテーマに、竹を用いて素材の音を探求しました。全員で竹を叩くことで、楽器の上手い下手は関係なしにグルーブが生まれることを共有できたと感じています。

また、屋外での練り歩き(ちんどん演奏)をより魅力的にするため講師に招き、ワークショップを行いました。共演者や観客を巻き込んだ一体感のある練り歩きについて学び、メンバーの意識も変化しました。

コンサート当日は、開演前にまちを練り歩き、チラシを配布し、大きな集客効果もありました。開演後はオリジナル曲を中心に民謡など、観客も巻き込みながらの演奏となりました。終演後のフリータイムでは、観客やスタッフとして参加していた人たちがセッションしたりと、本編同様の盛り上がりを見せました。

今年は20代を中心に運営する移動式屋台カフェ・からこそBOXの寿町初出店として、会場入口に移動式屋台カフェを出店し、コーヒーを通じて世代間交流の時間を持てました。

今回の事業のねらいは3つありました。気が向いた時にふらっと立ち寄れて誰でも自由に音楽を楽しむ場をつくること。おしゃべりや遊びを通じて多様な価値観を認め合える柔軟な関係性(ネットワーク)を構築すること。自分たちのオリジナルな楽曲・スタイルを新たに生み出し、大切に育てていくこと。いずれも昨年度以上の成果を生み出すことができたと考えています。

今後はどのように楽団を継続的に運営していくかが課題です。趣旨を理解しながら運営に携わるメンバーを増やしていきたいです。居場所としてのコミュニティとして自立していく方向も模索しています。

ミニヨコハマシティ+アート2023



パレード写真

NPO法人ミニシティ・プラス

連絡先

URL <https://minicity-plus.jp/>
 TEL、FAX 045-306-9004
 E-mail minicityplus@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/miniyokocity>
 X <https://twitter.com/minicityplus>

団体紹介

「まちはそこに暮らす人、かかわる人たちで創り上げていく」という理念から、まちの中で暮らす人が「まちについて知り」「まちのことを思い」「まちにかかわる」ために有効な事業をしている。こどもが社会参画するステージを創り出している。

会期 2023年8月5日～2023年8月6日

会場 【西区】BankART Station

参加アーティスト さとうりき、西原尚

来場者数	327人
主催	認定NPO法人ミニシティ・プラス
後援	横浜市こども青少年局、神奈川県、こども環境学会、キッズデザイン協議会
協力	BankART1929、資生堂グローバルイノベーションセンター、田園調布学園大学、神奈川大学、生活クラブ生活協同組合・神奈川、カゴメ株式会社、NPO法人I Loveつづき、NPO法人都筑文化芸術協会
実施イベント	8月5日～8月6日：ミニヨコハマシティ+アート2023(わくわくおばけフェス&地底人パレード)

アーティストとコラボした子どもたちによるまちづくり



さとうりきさんブース



西原尚さんブース



集合写真

子どもがつくる子どものまちのイベント「ミニヨコハマシティ」の中で、アーティストとコラボする企画を行いました。ミニヨコハマは、ひとりで参加できる4歳から19歳までの多様な年代の子どもたちが仮想のまちを数日間にわたってつくるプログラムです。横浜では2007年から開催してきましたが、今回は新しい試みとして多様性とインクルーシブの視点を取り入れるため、大人のアーティストも参画し、子どもたちの自主性を尊重した上で、遊びながらまちづくり体験をしてもらいました。

実施前の「こども会議」で、アーティストに現在の活動をプレゼンしてもらい、何をしたいか意見交換を行いました。決まったのは、楽器を創作してパレードに参加する「化学実験音楽系ラボ」と、自分の抜け殻を作り洋服づくりをしてパレードに参加する「地底人ラボ」、そしてお化け屋敷&ダンボール迷路の「恐怖のめいろう館」となりました。当日は、その日来場した参加者と、事前準備から参加している運営市民がワークショップに参加し、楽器をつくり、地底人の衣装をつくり1日3回のパレードを行いました。

ミニヨコハマでは「おかしやさん」「ざっかや」「宝くじ」など自分のやりたいことを心に決めて参加している子どもが多い中で、アーティストとのコラボにどれくらいの子どもの手が挙がるか未知数でしたが、12名の子どもが参加しました。アイデアを出し合うところから準備まで一緒に行いました。パレードでは、最初は恥ずかしがっていた子どもたちが、弾けるように大胆にパフォーマンスしている様子が見られました。

ミニヨコハマは、震災とコロナの年を除いて毎年1回継続してきました。今回、現代アートの拠点であるBankART Stationが会場となることが決まり、アーティストと子どものコラボレーションを実現したいと考えたのが、企画の始まりでした。子どもたちがリアルなまちづくりにも、アートが必要であると思ってくれるのではないかと期待しています。今後も多くの子どもたちに参加してもらいたいです。

「Stutter」コロナから、 みんなのペースを考えるプロジェクト



RAW Movesダンサー、
マシューとオードリーがユニゾンを踊る
Photo: 松本和幸

Murasaki Penguin

連絡先

URL <https://www.murasakipenguin.com/>
 E-mail info@murasakipenguin.com
 Facebook <https://www.facebook.com/murasakipenguin/>
 X <https://twitter.com/murasakipenguin>
 Instagram <https://www.instagram.com/murasakipenguin/>

団体紹介

黒田杏菜(ダンサー/振付家)とカークバトリックデイビット(サウンドマルチメディアアーティスト)が横浜を拠点に、ダンス・音楽・映像・電気・光・展示を織り交ぜ活動する。ライブパフォーマンスを中心とした互いに作用する発見に焦点をおいている。

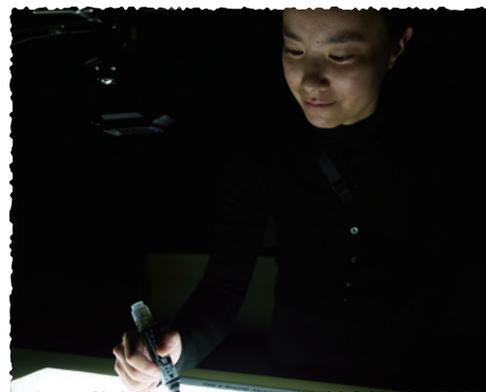
会期 2023年9月1日～2024年1月13日

会場 【戸塚区】MURASAKI PENGUIN PROJECT TOTSUKA【南区】男女共同参画センター横浜南
 ※そのほか、オンライン上で開催

参加アーティスト RAW Moves (リッキーシム、マシューゴー、オードリーデスモンド)、木村玲奈、黒田杏菜、カークバトリックデイビット

来場者数	124人
主催	Murasaki Penguin
共催	RAW Moves
後援	YPAM フリンジ、横浜トリエンナーレ「応援プログラム」
協力	MURASAKI PENGUIN PROJECT TOTSUKA、大洋建設株式会社、相原直樹、黒田英巳、関根朝子、林文子、渡辺伸一
助成	National Arts Council of Singapore、公益財団法人セゾン文化財団
実施イベント	9月1日～12月1日:オンラインリハーサル、11月23日:Translating Colour to Sound Lab、12月7日～12月18日:RAW Moves戸塚滞在、12月12日:YPAMプレゼンテーション、12月15日～12月17日:Stutter、1月13日:Stutter振り返り回

コロナ環境をテーマとした 戸塚のまちの中での作品づくり



ご自身のリズムをグラフにおこす参加者
Photo: 松本和幸



観客とダンサーが距離をはかる時間
Photo: 松本和幸



色を音ムーブメントにするワークショップの様子
Photo: 三橋純

観客参加型ダンスマルチメディアパフォーマンス「Stutter」を上演しました。来場者はコロナが存在する前・緊急事態宣言の間・現在の3つの「ベース」をグラフに描き、それらのデータをダンス/映像/音楽に変換し相互に関係し合いました。コロナウイルスによって私たちが失ったものを認識し、今も抱えている隠れた緊張を理解し、どのように再構築し、前進することができるかをパフォーマンスを通じて考えるプロジェクトです。

作品づくりのため、シンガポールのアーティストたちが戸塚に2週間滞在をしましたが、地元のパン屋、日本茶専門店など商店街の人たちと親しくなりました。これをきっかけに、拠点となっている「MURASAKI PENGUIN PROJECT TOTSUKA」を知る方も増えました。アーティストや多国籍の人たちが積極的に地域へ入ることで、芸術を通じた新しい交流や関係が生まれていく様子を感じることができました。

一日の感情を色にし、色から音、音から踊るワークショップ「Translating Colour to Sound Lab」は、地域の人たちに開きました。こうした試みを含め、企画全体で国内外の10ヶ国の方が参加しました。約半数の方は戸塚に来たことが初めてだということです。

作品上演の直後に行ったトーク企画では、国による感染者への対応の違いや、国際協働制作のプロセス、動きや音の意味を参加者と共有しました。言語はすべて日英で行われ「日本じゃないみたいだった」など、さまざまな感想をもらいました。

地域に今までなかった新しい取り組みで、浸透していくには時間がかかると思いますが、私たちの活動に賛同する方が少しずつ増えていることも実感しています。この小さな進歩を長期的に続けて行くことができれば、地域社会への大きな変化につながるのではないかと希望を持つことができました。個人一人ひとりがコミュニティの中で、自分らしく生きていける環境を芸術を通してつくっていきます。

まちなかギャラリー2023



「天のご近所旅行」トークイベント
「井戸端会議」実施風景

会期 2023年8月11日～2024年1月28日

会場 【中区】若葉町ウォーフ

参加アーティスト いるかパーク、佐藤信、島田健司、シルヴブレ、山田裕介

来場者数	671人
主催	一般社団法人横浜若葉町計画
協力	劇団かかし座、公益財団法人神奈川芸術文化財団 神奈川県立音楽堂、公益財団法人横浜市緑の協会 海の公園、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 横浜能楽堂、コーヒータロー、黄金町エアーマネジメントセンター、黄金町BASE、自立生活センター 自立の魂 ～略してじりたま!～、シネマ・ジャックアンドベティ、スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 象の鼻テラス、丹青社・東急コミュニティー 共同事業体 横浜人形の家、特定非営利活動法人 BankART1929、似て非works、横浜市立東小学校・横浜市立戸部小学校・横浜市立本町小学校、横浜市民ギャラリー、横浜市寿町健康福祉交流センター、横浜市にぎわいスポーツ文化局、横浜ポートシアター、横浜にぎわい座、横浜シネマリン、YPAM (横浜国際舞台芸術ミーティング)
実施イベント	8月11日～8月13日:「くじらの夢」造形ワークショップ、8月25日～8月27日:「くじらの夢」展示、1月20日～1月28日:「天のご近所旅行」展示、1月28日:「天のご近所旅行」特別公演「愛と笑いのパントマイム劇場 まちなかギャラリー-ver.」、井戸端会議 special 集まる、伝わる、何が生まれる?」

一般社団法人横浜若葉町計画

連絡先

URL	https://wharf.site/
TEL	045-315-6025
FAX	045-315-6027
E-mail	info@wharf.site
Facebook	https://www.facebook.com/wakabachowharf
X	https://twitter.com/WAKABACHOWHARF
Instagram	https://www.instagram.com/wakabacho_wharf/

団体紹介

一般社団法人横浜若葉町計画は2016年に設立された横浜市中区若葉町にある劇場・スタジオ・宿が一体となった民間アートセンター若葉町ウォーフの管理・運営、自主事業の企画と実施を行っている。「まちなかギャラリー」は地域参加による展示会として2023年度で4年目を迎える。

アートで 地域をつなぐ劇場



「くじらの夢」展示を見る観客



「天のご近所旅行」展示内観



「天のご近所旅行」
パントマイムデュオ・シルヴブレによるパフォーマンス風景

今年度もまちなかギャラリーとして劇場を地域に開く取り組みを行いました。

夏休み期間に行った「くじらの夢」ワークショップでは黄金町BASEの山田裕介を講師に招き、廃材等を用いて、地域の子もたちとともに全長6メートル強のくじらのオブジェを制作しました。またワークショップ実施後には若葉町ウォーフ1階でくじらの展示を行いました。アーティストが一方向的に創作させるのではなく、子どもたちの主体性を引き出し、自ら考え、創作する場を整えることを重視しています。今後もまちなか空の地のように、子どもたちがなるべく経済的な負担を感じることなく、自由に入出し、主体的に創作から発表までを行うイベントやワークショップの場を継続して開催したいです。この活動は3年となりましたが継続して展示を行ったことで、徐々に活動の認知度も高まり、地域とのつながりを深められています。

若葉町ウォーフでは2020年より横浜で活動する団体やアーティスト等と雑談をする場「井戸端会議」を開催しており、その中で深めたつながりを生かし、横浜市内の文化活動の一端を、若葉町ウォーフのマスコットキャラクター「天天」の視点で紹介する展示『天のご近所旅行』を開催しました。展示は「天天」というキャラクターが井戸端会議に参加しているうちに、横浜の文化活動についてより知りたくなり、若葉町ウォーフを抜け出し、ご近所を旅行し、その様子をSNSやウェブサイトで紹介するというストーリーです。単なる活動紹介ではなく、より身近に横浜の文化活動を知るきっかけづくりになりました。関連イベントでは展示空間を生かしたパントマイム公演とトークイベントを開催しました。トークイベントでは横浜で活動することの楽しさ・難しさ、0からつくるのではなくこれまでの担い手がつづってきた文化をどのように受け継ぎ、今後につなげるかを考える時間となりました。

今後は外国にルーツのある住民の多い地域性に合わせた環境づくりを検討しています。

つなGO!はちのじライブラリー2023



畑の直売所に併設された「畑の中のひとやすみ文庫」

Little Free Libraryはちのじぶんこ

連絡先

URL <https://novokito.com/8b/tsunago2023/>
 E-mail hachinoji.bunko@gmail.com
 Instagram <https://www.instagram.com/hachinojibunko/>

団体紹介

2021年6月、庭先のスペースを利用して私設図書館「はちのじぶんこ」を開庫。本を介したゆるやかなつながりの中継地点（コミュニティ・ブック・ハブ）としての機能を持つフリーライブラリーの魅力を発信し、都筑区内を中心に、フリーライブラリーを設置したい方へのノウハウの提供や相談を受けている。

会期 2023年7月1日～2024年1月31日

会場 【都筑区】イシカワサンボ文庫、すずらんぶんこ、なのはなぶんこ、豆三図書館、畑の中のひとやすみ文庫、かぶとむし文庫、はちのじぶんこ、うちの本だな、IRODORI文庫、ナチュラルガーデン文庫、小鳥文庫、コミハのハコブンコ、たびするはちのじぶんこ、都筑区役所区民ホールほか

参加アーティスト ISHIKAWASAMBO、MARS、はんす&まさみっちょ、市川純而、鈴木健夫、HIKARI酒巻、福井昭芳、カブカブ川和の作家たち、NOVOKITO、小島啓、犬竹真美、ふわくみ、吉竹香奈恵

来場者数	2,400人
主催	Little Free Library はちのじぶんこ
共催	つづきの丘小学校コミュニティハウス、加賀原地域ケアプラザ
後援	都筑区役所、都筑図書館
協賛	東屋豆腐店、市川順而、鈴木健夫、酒と米うちの、城所辰男
協力	えだきん商店会、川和地区連合町内会、荻田南連合自治会、都筑区社会福祉協議会、渋沢地区社会福祉協議会
実施イベント	7月1日～1月31日：つなGO!はちのじライブラリー2023、11月16日～11月18日：つづきブックフェスタ

いつでも誰でも利用できる フリーライブラリーの魅力



絵本・児童書専用の「豆三図書館」



つづきブックフェスタでの企画：
どんなものでもフリーライブラリー展より
“あるく本だな”のパフォーマンス



荻田エリアでのライブラリーを巡る親子散歩イベント、
場所は「小鳥文庫」

区民の生活の中に本が身近にある環境を創出し、フリーライブラリーの周知とその楽しさをたくさんの方に体験してもらうために、この事業を行いました。

今回の事業では、いつでも誰でも利用できるフリーライブラリーを都筑区内12ヶ所に設置しました。景観に溶け込む心弾むオブジェであり、利用して楽しいライブラリーです。どこで借りても返してもいい仕組みによって、はちのじに巡る本を介してゆるやかな人のつながりを生み出します。ライブラリーごとにオリジナル葉を作成し、集めて楽しめる工夫もしました。ライブラリーのオーナーを集めて、フリーライブラリーの説明会、親睦会、実施報告会を実施し、ライブラリー同士のつながりもつくりました。

元クリニックだった場所や、豆腐店、酒屋やケアプラザ、そして個人宅といったように、ライブラリーごとにオーナーが異なり、それぞれのルールで運用しています。フリーライブラリーは利用者とともに作り上げていく居場所なので、時間の経過にあわせて個々の個性が紡がれていくおもしろさがあります。

11月には、都筑図書館・区役所・都筑図書館から未来を描く会が共催で毎年開催するつづきブックフェスタに参加しました。「つなGO!はちのじライブラリー2023」の取り組みのパネルやさまざまな形のフリーライブラリーの実演、たびするはちのじぶんこの実施など、3日間のフェスタを盛り上げました。

フリーライブラリーの多様な可能性を知って体験してもらうことで、地域への貢献と活性化につながることへの理解を深め、フリーライブラリーをやってみたい、見かけたら利用したい、という声をいただき、今後の展開への種蒔きができた実感しています。

今後も、各文庫を巡り葉を集めてもらうイベントを開催するなどし、気軽に立ち寄れる身近な居場所として、フリーライブラリーに親しめる機会を提供していきたいです。

「ロジウラート！」 ウラアートでハートのキャッチボール！



ウラアートの様子(8/19)、
地元の畑で育てた藍で生葉染め

ROJIURART 実行委員会

連絡先

URL <https://artrojiurart.wixsite.com/rojiurart>
 TEL 090-7717-4373
 E-mail artrojiurart@gmail.com
 Facebook <https://www.facebook.com/rojiurart>

団体紹介

①循環型アート②障害者アート③地域の人による地元産作物の
 アートワークショップを軸に、多様なアートを通じて生まれる心の
 高揚や共感により、多くの人がつながるきっかけや場づくりを提
 案しています。

会期 2023年7月29日～2023年11月12日

会場 【都筑区】みんなの夢カフェ、都筑民家園

参加アーティスト 石原陸郎、小林大介、タカヒロ、カブカブ川和、つづき地域活動ホームくさぶえ、つきあかり、bau、木り絵、もかいろ工房、チャコ村

来場者数	546人
主催	ROJIURART実行委員会、NPO法人都筑民家園管理運営委員会
共催	都筑区
後援	横浜市歴史博物館
協力	みんなの夢カフェ協議会
助成	都筑ふれあい助成金
実施イベント	7月29日、8月19日、11月12日：ウラアート、9月23日：ロジウラート

アートの裏側から みんなを巻き込んで



ロジウラート当日の様子(9/23)、インスタ再生100万回！
 巨大びー玉ころがしもみんなで作りました！



ウラアートの様子(11/12)、
 チャコ村の畑で採れた綿で糸つむぎ



ウラアートの様子(7/29)、
 蛍光塗料を使って光る宝石づくり

今回はアートのプロセスを作り手と観客側が共有することで新たなアートのかたちが生まれることを期待し、フェスティバルの前後に「ウラアート」としてアートの裏側を体験するワークショップを「みんなの夢カフェ」にて開催しました。

ワークショップは1日目は廃材を利用して作品を制作するアーティストによる木端を使ったびー玉ころがしゲームボード、障害のあるアーティストによる光る宝石づくりを、2日目には福祉施設によるさをり織り、都筑区の地域資源を活用する団体による地元の畑で育てた藍を使った生葉染めを行いました。フェスティバル後の3日目は障害のあるアーティストによる版画の刷り体験、地域の居場所に集う青少年によるカフェ等を行いました。子どもから大人まで多くの人に参加し、いずれの回も盛況でした。

ロジウラートのフェスティバルは都筑民家園にて開催しました。ワークショップに参加したアーティストや施設による作品展示や販売、映像作品の上映のほか、当日も体験できるワークショップや似顔絵コーナー、生演奏など盛りだくさんの一日となりました。展示ではワークショップで参加者と作家がともに作成した作品や、製作風景の写真などを各ブースで表現しました。また初の試みとしてロジウラートオリジナル商品の開発制作に挑戦し、それぞれの出展者の景品がランダムで出てくるオリジナルのカプセルトイを設置しました。ロジウラート当日に参加してアートに関心を持った人たちが、後日のワークショップにも参加する様子も見られました。アーティストやスタッフには障害のある人や不登校の子どももいましたが、作品が観客に受け入れられている様子を見たり、ワークショップで製作を教えたりすることを通して、地域や社会とのつながりが生まれたこともアート活動による成果だと思っています。

今後はより地域に根差した活動を目指し、他団体との連携も視野に入れた展開を検討しています。

地域におけるつながりやネットワークを広げ、コミュニティの活性化を図ることを目的とし、横浜でアートと地域の関わりについて考える交流と研修の場として年に4回ほどトークイベントを開催しています。

テーマ

農と生活とアート



photo: 金子愛帆

〈ゲスト〉原田朋子 「虹色畑クラブ」代表

港北区高田町にて農作業を通して発達障害など生きづらさを抱える人が、その人らしい生き方ができると、社会復帰への一歩を踏み出せるようになることを目指して活動を行っている。



〈ゲスト〉菊島景子 「チャコ村」代表

都筑区にある「チャコ村」で、「みんなで作るみんなの居場所」をモットーに畑で農作業をしたり、小屋でお茶を飲んだり、子どもから大人まで地域の人が集まれる場所を開いている。

進行：森崎花（ヨコハマアートサイト事務局） 日時：2023年11月1日（水） 会場：都筑民家園

今回のテーマは「農と生活とアート」。会場は約280年前の農家の建物である都筑民家園で行われました。ゲストは生きづらさを抱える人が援農を通して元気を取り戻す場所「虹色畑クラブ」代表の原田朋子さんと、畑と小屋と広場からなる地域の居場所「チャコ村」代表の菊島景子さんを迎えました。

原田さんは精神的な不調に悩んだ過去から、畑での作業で救われた自分自身の体験を語りました。笑顔で語る様子が畑の楽しさがいきいきと伝わってきます。虹色畑クラブがアートを取り入れたのは今年から。寿町でアートワークショップと夕食を共にする場を開いている「居場所『カドベヤで過ごす火曜日』」との出会いがきっかけです。音楽や絵などを通して農作業だけでは見えなかった参加者の姿が見られて視野が広がったと言います。

菊島さんは自作の紙芝居を用いて発表をしました。チャコ村はかつて菊島さんの祖母が農作業の休憩所として使っていた小屋でした。高齢になり閉鎖していたところ、菊島さんが次女の不登校をきっかけに小屋を開くようになります。赤ちゃんからお年寄りまで自由に集い、農作業や食事を共にする中で、不登校の子も平日の屋間に自然と溶け込める雰囲気を大切に活動を続けています。

会場には都筑区で子どもから大人までそして障害のある人とともにアート活動を行っているロジウラート代表の柏崎久恵さんも参加していました。柏崎さんは活動の中で藍を育てる場所を探してチャコ村に出会ったと言います。そこから菊島さんも一緒に本格的な藍染めや、綿を育てて糸を紡いだりしている中でチャコ村にアートが浸透していきました。子どもたちの新しい一面を見つけて胸が熱くなることも多いと柏崎さんは語ります。

ディスカッションでは、来て来なくてもいい場所のあり方について語られ、無理に行くのではなく、自分が行きたいと思っける場所があること、ただ共にいることを大事にする視点に共通点を見出しました。終了後も参加者同士が語り合い、生活と地続きにあるアートと農の魅力を味わう時間になりました。



当日の様子

テーマ

イギリスのコミュニティ・アートから考える



photo: 江上雄次

〈ゲスト〉小林瑠音 芸術文化観光専門職大学講師

ウォーリック大学大学院ヨーロッパ文化政策・マネジメント専攻修士課程修了(MA)。神戸大学大学院国際文化学専攻博士課程修了(博士(学術))。2015年まで應典院にてアートディレクターを務め、劇場型仏教寺院にて現代美術の展覧会や子どもとアートをつなぐプログラムの企画・運営などを行う。専門はイギリスの文化政策、アーツカウンシル史、コミュニティ・アートの国際比較。主著に『英国のコミュニティ・アートとアーツカウンシル：タンポポとバラの攻防』(水曜社、2023)。



〈ゲスト〉横山千晶 慶應義塾大学法学部教授

専門は19世紀のイギリス文化。ヴィクトリア朝に始まった芸術と生活の融合と、コミュニティ構築に果たす芸術の役割をテーマとして、研究と実践を重ねている。毎週火曜日に横浜市中区石川町で「共に表現すること」と「共に食べること」を中心とした小さな居場所「カドベヤで過ごす火曜日」を仲間とともに運営し、暮らしの中の芸術の意義を模索している。主著に『コミュニティと芸術：パンデミック時代に考える創造力』(慶應義塾大学教養研究センター選書、2021)。

進行：田中真実（ヨコハマアートサイト事務局） 日時：2023年12月12日（火） 会場：フォーラム南太田3階大研修室（YPAM会場）およびオンライン

今回はコミュニティアートのイギリスでの変遷を軸に、横浜での事例も含め、その定義や批判、展望について考えました。

コミュニティアートの定義はさまざまですが、小林さんは、これまでアートに触れたことのないような市民が主体となって表現を行うことを目指す芸術活動のことを指すと仮定しています。1970年代のイギリスでは鑑賞のための芸術だけでなく、市民が主体となって取り組むコミュニティアートの環境整備のため、各団体が立ち上がり運動を起こしました。このような運動が盛んになる一方で、英国内では定義が曖昧でどんな活動もコミュニティアートと名乗ることができてしまう、活動が公金に依存しておりカウンターカルチャーとしての説得力に欠けるなどの批判もありました。小林さんは、こういった批判を受けるに至った背景には、コミュニティアーティストの理論化に対するアレルギーやアーカイブの未整備によって、活動の主旨や変遷に関する言説化が遅れたことが関係しているのではないかと語りました。

横山さんはイギリスのジョン・ラスキンやウィリアム・モリスなどの言葉を引用し、人の生活において芸術は必要不可欠であり、労働も他者とつながる自己表現=アートとして捉える考え方を紹介しまし

た。横山さんはその精神を引き継ぎ、寿町の簡易宿泊所が集中するエリアの付近で「カドベヤ」という居場所を毎週火曜日に開いています。カドベヤでは身体を動かしたり、絵を描いたりするアートワークショップを行い、その後にみんなで手づくりの夕飯を食べます。料理は引きこもりだった青年たちがつくっています。横山さんはワークショップに参加しなくても見学したり、料理をつくったり、食べたりする全てをアートとして捉え活動しています。

ディスカッションではコミュニティアートにおけるアーティストはイギリスでは媒介者と呼ばれ、参加者を後ろから支える黒子的な存在だったことが語られ、アーティスト主体の制作との違いが共有されました。また、制作物よりもその過程を重視するアートプロジェクトの評価については、当時のイギリスから現在の日本にも引き継がれる課題であるとされました。



当日の様子

テーマ

音で超える、つなぐ～さまざまな人と音楽を～



〈ゲスト〉小柳玲子 「おとむすび」代表

高齢の方も子どもたちも、障害のある人もない人も、自分らしく音楽を楽しめる音楽スペース「おとむすび」にて代表を務める。日本音楽療法学会認定音楽療法士としては、児童発達支援センター、放課後等デイサービス、精神科病院等で音楽療法の臨床実践を行ってきた。



〈ゲスト〉木村有沙 音楽家

乳幼児や障害のある子どもたち、またその保護者に向けて管打楽器による生演奏を届ける音楽ユニット「しましまのおんがくたい」として活動を行う。サクソフォン奏者としても活躍し数々の賞を受賞。洗足学園高等学校音楽科、洗足学園音楽大学、同大学院卒業。

進行：小川智紀(ヨコハマアートサイト事務局) 日時：2023年12月17日(日) 会場：音楽スペース「おとむすび」

今回は障害の有無にかかわらず、さまざまな人に音楽を通してアプローチする活動を行うおふたりをゲストに、開かれた音楽のあり方を考えました。

木村さんは青葉区民文化センターフィリアホールでの親子向けコンサートへの出演をきっかけに「しましまのおんがくたい」を結成。始めは親子向けの活動が中心でしたが、地域コーディネーターのアドバイスを受け「あおば支援学校」で演奏する機会を得ます。そこで障害のある子どもたちがコンサートホールに行きづらい現状や、地域での学校の知名度が低いことを知り、学校での定期的な活動を開始します。演奏やワークショップを繰り返し、改善しながら子どもたちとの関係性を深め、教員の協力のもとホールでのコンサートが実現しました。その後も子どもの特性に合わせた楽器づくりワークショップや、地域の人や卒業生を含めたバリアフリーコンサートを開催するなど、一歩ずつ目標を実現しています。

小柳さんが「音楽スペースおとむすび」を開いた背景には音楽療法士としての経験がありました。それは支援学校や福祉施設の中では音楽ができて、卒業や退院後に音楽を楽しむ機会が地域に少ないという現状です。地域の中で、支援する／されるに関わらない関係の中で、音楽を楽しむ場を

つくりたいと考えた小柳さんは、同じ気持ちを持つ仲間を集めクラウドファンディングを行い、スペースを開設しました。地域とのつながりを少しずつ築き、現在では障害のある人も、音楽にハードルの高さを感じていた人も、また年齢や経験にかかわらず多様な人たちが、今自分が出来ることを持ち寄って音楽に参加する場になっています。

ディスカッションでは音楽が人をつなぐことを信じて活動しつつ、同時にそれが押し付けになっていないかを常に考えることの重要性が挙げられました。身内での活動にならないよう視野と間口を広げ、資金調達を含め今後の展開につなげたいと語りました。



当日の様子

テーマ

遊んで育つ場をひらく



〈ゲスト〉小森朋美 「スペースナナ」運営メンバー

ギャラリーやショップを併設したコミュニティカフェ「スペースナナ」の運営メンバー。「のんびりアートデイ」として、小さい子どもや障害児のいる家庭・ひとり親家庭の方も来やすい場を企画している。



〈ゲスト〉谷崎悦子 NPO法人横浜こどものひろば事務局長

子どもの年齢に合わせた演劇や音楽・芸能など舞台芸術の上演による鑑賞の機会の創出や、おやおキャンプなど子どもの遊び場づくりの活動を行っている。



〈ゲスト〉尾崎万里奈 「さくらリビング」施設長

青少年育成・支援事業、施設運営等を行う公益財団法人よこはまユースで青少年交流・活動支援スペース「さくらリビング」施設長を務める。生きづらさを抱える高校生のための校内カフェなど、若者の居場所づくりに注力している。

進行：小川智紀(ヨコハマアートサイト事務局) 収録日時：2024年3月8日(金) 会場：青少年交流・活動支援スペース「さくらリビング」

今回は子どもたちがあそび、健やかに育つための地域の「居場所」を考える時間となりました。

小森さんはコミュニティカフェ「スペースナナ」のメンバーです。その中で「のんびりアートデイ」としてアートワークショップを開いています。広報ではいつ誰が来ても良いことを伝えて参加のハードルを下げることを意識しました。ふだんは育児に追われている保護者も複数人で集まることで心身の負担が軽くなり、子どもとも程よい距離感で向き合うことが出来るようです。アートを介して、年齢や特性にかかわらずフラットな関係性を育んでいます。

谷崎さんが事務局長を務める「横浜こどものひろば」は市内の4つのおよこ劇場が協働し、舞台鑑賞やキャンプなどのイベントを通して0歳から高校生、そして大人まで幅広い世代にアプローチしています。イベントでは子どもが発言できるリラックスした環境を意識し、自己表現の場を作っています。また子ども同士が創造的な活動の中で意見を交わすことで仲間づくりにもつながっています。学校以外の居場所で自主性を育み、子どもも大人も孤立しない環境を目指しています。

尾崎さんは青少年の現状と、施設長を務める「さくらリビング」について語りました。不安定な家庭環

境や学校に通いづらい青少年が増加するなか、家や学校以外の居場所は重要な役割を担っています。さくらリビングは青少年の居場所として開かれ、勉強をしたり、ひとりでのんびりしたり、友だちと遊んだりして過ごせる場です。スペースを開くだけでなく青少年委員による交流イベントやまちを清掃するボランティアなどの活動も行うことで青少年同士や地域とのつながりを深めています。

ディスカッションでは、家庭や本人の抱えている問題に直接アプローチするのではなく、ゆったりとした場で話をしたり手を動かしたりする中で、自然と悩みが和らぐような関係づくりを重視する視点が共有されました。



当日の様子

vol.
035

特集 「まちと詩」

2023年6月30日発行

横浜のまちで短歌や現代詩など「詩」にまつわる活動を行うみなさんにお話を伺いました。

【レポート】

- 子どもの本&クーベルチップ「クーベルチップ歌会」
- 中村剛彦さん「若葉町コトダマップ」
- 松下育男さん「詩の教室」

【ヨコハマアートサイト2022報告会】

- ヨコハマアートサイト2022報告会について

【コラム 地域文化の風景】

- 〜博物館のある街の文化祭〜/羽毛田 智幸

【事務局うろうろ日記】

- 若葉町ウォーフ「CABARET」
- 瀬谷区民文化センターあじさいプラザ「プラザ・アートウィーク2023」
- 横浜人形の家「ぬいぐるみのげんざい」
- 7artscafe「AVIARY OF DREAMS - 空飛ぶ夢」



季刊ヨコハマ
アートサイトとは？

横浜の地域文化に焦点をあて、各地域での取り組みを幅広く紹介する冊子です。横浜市内の各区役所、文化施設、地区センター、地域ケアプラザ等で配布しています。ウェブサイトからもご覧いただけます。今年度はvol.35、36、37、38の計4冊を発行しました。

vol.
037

特集 「まちから世界を想像する」

2023年12月31日発行

アートを入り口に新しい発見、出会い、学びを生み出すみなさんにお話を伺いました。

【レポート】

- NPO法人EduArt「グローバルシティズンを通して育む」
- NPO法人Sharing Caring Culture「アートで多文化コミュニティを開く」
- WeTT実行委員会「weTREES TSURUMI プロジェクト」

【ヨコハマアートサイトラウンジVol.38】

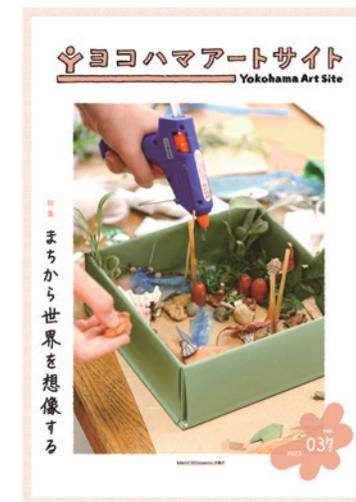
- 農と生活とアート レポート

【コラム 地域文化の風景】

- 〜川崎の未来を豊かに彩るつながりづくり〜/久保田 陽子

【事務局うろうろ日記】

- ひよこの会「ひよこの会のハロウィン from Home」
- オリオリオルオル「機織りワークショップ」
- Little Free Library はちのじぶんこ「フリーライブラリー」
- Studio oowa「YUKAI YOKAI YAKAI」



vol.
036

特集 「農からはじまる」

2023年9月30日発行

農業や自然とのつながりの中で人が集まり、小さな文化を育む活動を行うみなさんにお話を伺いました。

【レポート】

- 虹色畑クラブ「農作業を通してその人自身を取り戻す場所」
- よこはま里山研究所(NORA)「里山とかかわる暮らしを」
- チャコ村「みんなでつくるみんなの居場所」

【ヨコハマアートサイト2023について】

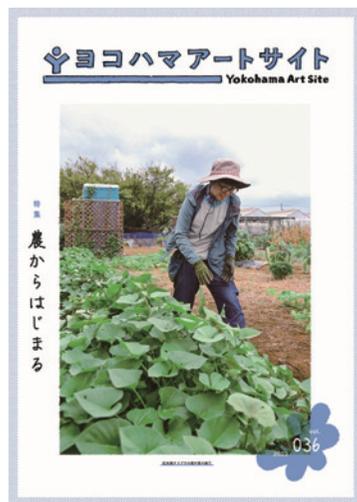
- ヨコハマアートサイト2023プロジェクト進行中

【コラム 地域文化の風景】

- 歴史と文化のプロムナードとその遺産
〜街と人に支えられ、街とともに時を刻む〜/田中 啓介

【事務局うろうろ日記】

- WeTT実行委員会「鶴見エナジーポイントプロジェクト」
- 金沢区舞台芸術サークル潮の音「歴史探索」
- NPO法人ミニシティ・プラス「ミニヨコハマシティ2023」
- NPO法人シー・ホース工房「未来音楽アートサロン」



vol.
038

特集 「生活と身体」

2024年3月31日発行

生活と身体をつなぐを捉え、表現活動を行っているみなさんにお話を伺いました。

【レポート】

- アオキカク「生に向き合う身体「新人H ソケリッサ！」」
- un:ten+「女性のエンパワメントを衣服と身体で表現する」
- Murasaki Penguin「コミュニティと芸術を身体から考える」

【ヨコハマアートサイトラウンジVol.40】

- 音楽で超える、つなぐ〜さまざまな人と音楽を〜 レポート

【コラム 地域文化の風景】

- 〜アートから伝える共生社会〜/和田 剛

【事務局うろうろ日記】

- 一般社団法人ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館「ジャズ喫茶ちぐさの90年」
- あっぱれフェスタ実行委員会「あっぱれフェスタ2023」
- OUTBACKプロジェクト「OUTBACK アクターズスクール第3回横浜演劇公演」
- ヨコハマアートサイト2024「募集開始」



採択事業一覧

事業名	団体名	開催区	採択額(円)
1. 会社から地域へまるごとギャラリー2023	アーティストネットワーク+コンパス	金沢区	500,000
2. OUTBACKアクターズスクール	OUTBACKプロジェクト	神奈川区、中区	1,510,000
3. 2023「路上の身体祭典H!」新人Hンケリッサ!寿町プロジェクト	任意団体アオキカク	中区	260,000
4. 第十回あっぱれフェスタ	あっぱれフェスタ実行委員会	旭区、中区	500,000
5. ONO POINT ART SPACE	WeTT実行委員会	鶴見区	250,000
6. EduArt:グローバルシティズンシッププログラム	特定非営利活動法人EduArt	中区、西区、神奈川区、港北区、緑区、鶴見区	500,000
7. おりおり!おるおる!	オリオリオル	青葉区、緑区	190,000
8. 企画伴走プロジェクト「SPROUT」	音楽スペースおとむすび	泉区	180,000
9. 金沢区民参加ステージ2023	金沢区舞台芸術サークル「潮の音」	金沢区	150,000
10. 第23回手づくり紙芝居コンクール	紙芝居文化推進協議会	西区、南区	440,000
11. 黄金町BASE	黄金町BASE	中区、旭区	520,000
12. ことぶき「てがみ」プロジェクト	ことぶき「てがみ」プロジェクト実行委員会	中区	590,000
13. 竹を愛でる。創る。奏でる。	特定非営利活動法人シーホース工房	中区、緑区	100,000
14. あおぼりあふりーコンサート	しましまのおんがくたい	青葉区	430,000
15. ジャズ喫茶ちぐさの90年	一般社団法人 ジャズ喫茶ちぐさ・吉田衛記念館	西区、中区	800,000
16. アートプロジェクトstudio oowa	Studio oowa実行委員会	西区	1000,000
17. 性暴力サバイバービジュアルボイス	STAND Still	中区、青葉区、南区、鶴見区	880,000
18. のんびりアートデイ	NPO法人スペースナナ	青葉区、緑区	440,000
19. SAKAE Wakamono Creation	ティーンズクリエイション組織委員会	栄区、金沢区	500,000
20. どこコレ?inたまプラーザ	どこコレ?inたまプラーザ運営事務局	青葉区	200,000
21. 虹色畑クラブ 畑でアートプログラム	虹色畑クラブ	港北区、中区	400,000
22. 横浜インターナショナルユースフォトプロジェクト	Picture This Japan	中区、栄区、鶴見区、南区	620,000
23. 未来に繋ごう、皆んなの!!歴史・文化・芸術!! ~巻いてあるもの!??~	特定非営利活動法人美術保存修復センター横浜	西区	750,000
24. 視覚障害児と一緒に作り出すインビジュアルアートの開催	ひよこの会	南区、中区	300,000
25. みんなでワークショップ	NPO法人ぶかぶか	緑区	800,000
26. ほってみる	ほる実行委員会	中区、西区、金沢区、神奈川区	1,220,000
27. まちなか立寄楽団の「たちよってつくるコンサート2023」	まちなか立寄楽団	中区	150,000
28. ミニヨコハマシティ+アート2023	NPO法人ミニシティ・プラス	西区	300,000
29. 「Stutter」コロナから、みんなのベースを考えるプロジェクト	Murasaki Penguin	戸塚区、南区	500,000
30. まちなかギャラリー2023	一般社団法人横浜若葉町計画	中区	1,440,000
31. つなGO!はちのじライブラリ-2023	Little Free Library はちのじぶんこ	都筑区	420,000
32. 「ロジウラート!」ウラアートでハートのキャッチボール!	ROJIURART実行委員会	都筑区	200,000

※2023年5月31日、採択時の情報です。





横浜市地域文化サポート事業
ヨコハマアートサイト2023実施レポート

2024年3月31日発行

URL:<https://y-artsite.org/> TwitterID: @Y_Artsite Facebook: <https://www.facebook.com/yokohama.artsite/>
発行: ヨコハマアートサイト事務局(認定特定非営利活動法人STスポット横浜、横浜市にぎわいスポーツ文化局)、編集:
認定特定非営利活動法人STスポット横浜、編集協力: 大谷薫子、デザイン: 小池佑子、印刷・製本: 共進印刷株式会社

ヨコハマアートサイト事務局 〒220-0004 横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビルB1F(認定特定非営利活動法人STスポット横浜 地域連携事業部 内)
TEL:045-325-0410 FAX:045-325-0414 MAIL:office@y-artsite.org